

Ⅱ 結 果 の 内 容

《しあわせ信州創造プラン(長野県総合5か年計画) について》

【健康づくりに関する実感】

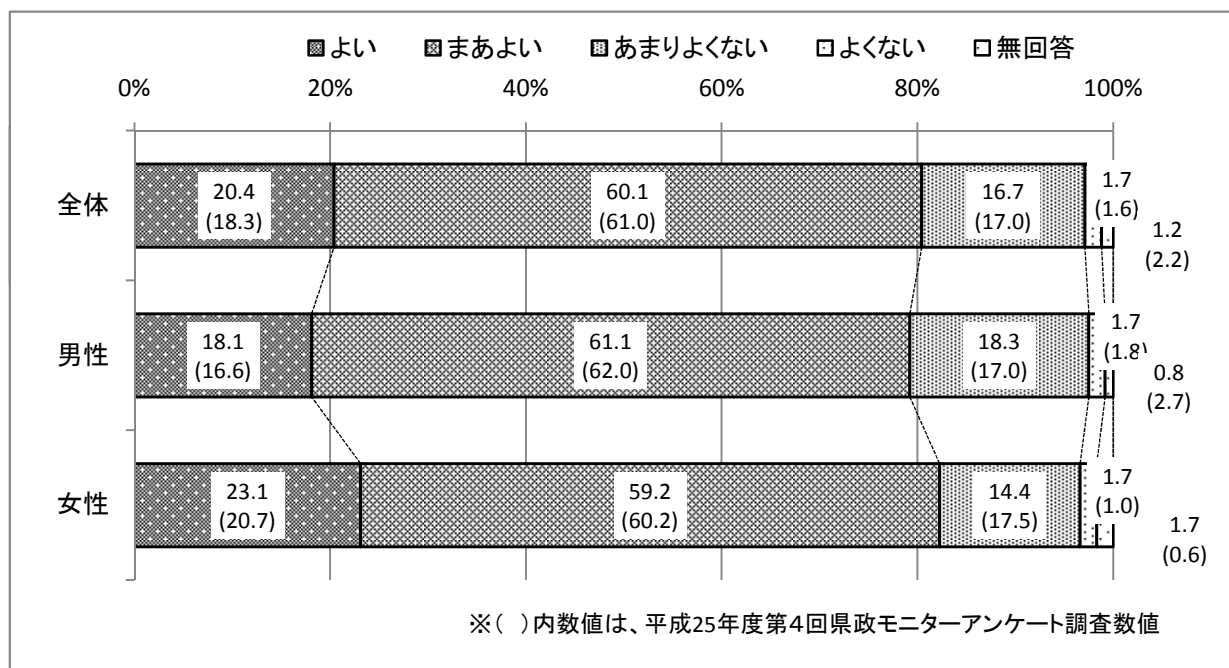
＜自分の健康状態について＞

「よい」と「まあよい」を合わせて約8割

問1 あなたは、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

	H26年度 n=844		(参考)H25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
よい	172	20.4	150	18.3
まあよい	507	60.1	500	61.0
あまりよくない	141	16.7	139	17.0
よくない	14	1.7	13	1.6
無回答	10	1.2	18	2.2

●自分の健康状態を「よい」、「まあよい」と感じている割合は80.5%であり、前年度(79.3%)とほぼ同じ割合である。



＜現在(またはこの1年間)に健康の維持・増進に関することで取り組んでいること＞
「運動に関すること」に関して「取り組んでいる」は3割弱、「食生活に関すること」に「取り組んでいる」は約4割

問 2-1 あなたは、現在(またはこの1年間)、次の中で取り組んでいることがありますか。(項目ごとに○は1つ)

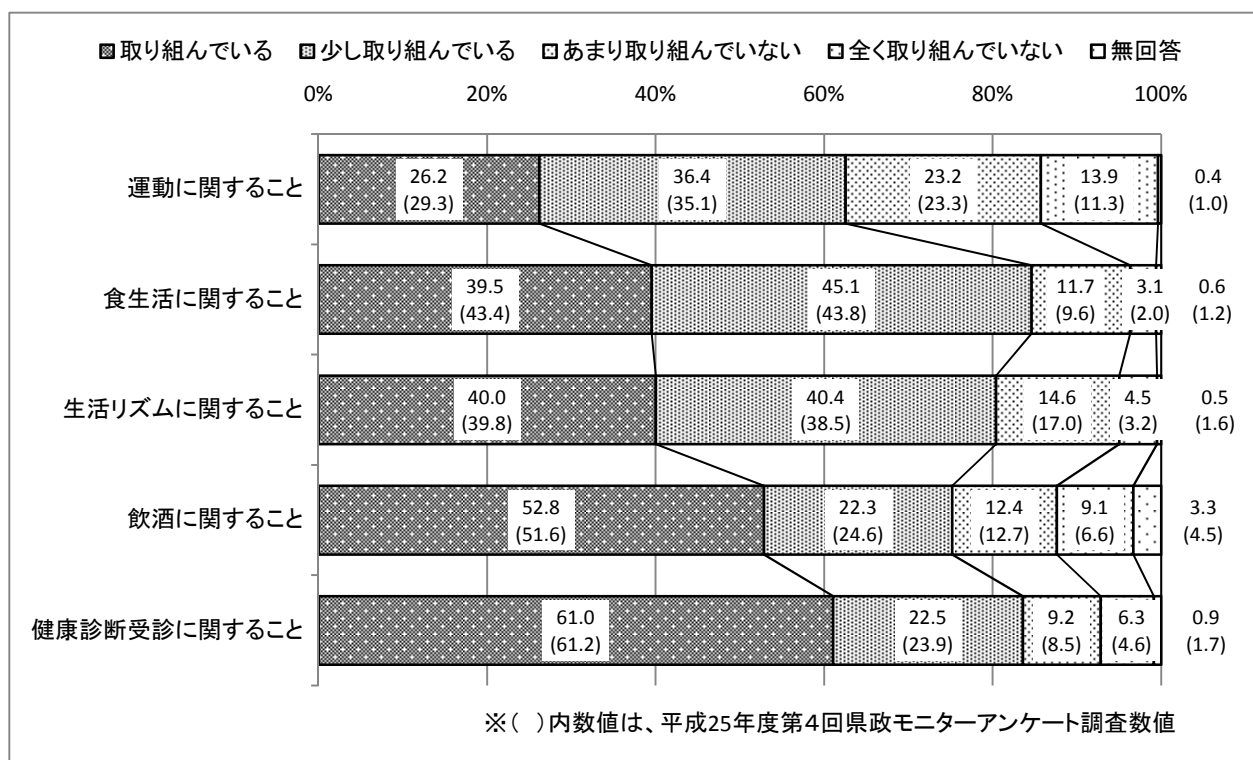
n=844	回答数(人)					割合(%)				
	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない	無回答	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない	無回答
① 運動に関すること	221	307	196	117	3	26.2	36.4	23.2	13.9	0.4
② 食生活に関すること	333	381	99	26	5	39.5	45.1	11.7	3.1	0.6
③ 生活リズムに関すること	338	341	123	38	4	40.0	40.4	14.6	4.5	0.5
④ 飲酒に関すること	446	188	105	77	28	52.8	22.3	12.4	9.1	3.3
⑤ 健康診断受診に関すること	515	190	78	53	8	61.0	22.5	9.2	6.3	0.9
⑥ その他	61					7.2				

(参考)H25年度

n=820	回答数(人)					割合(%)				
	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない	無回答	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない	無回答
① 運動に関すること	240	288	191	93	8	29.3	35.1	23.3	11.3	1.0
② 食生活に関すること	356	359	79	16	10	43.4	43.8	9.6	2.0	1.2
③ 生活リズムに関すること	326	316	139	26	13	39.8	38.5	17.0	3.2	1.6
④ 飲酒に関すること	423	202	104	54	37	51.6	24.6	12.7	6.6	4.5
⑤ 健康診断受診に関すること	502	196	70	38	14	61.2	23.9	8.5	4.6	1.7
⑥ その他	86					10.5				

●「取り組んでいる」としては、「健康診断受診に関すること」が61.0%と最も高く、次に「飲酒に関すること」(52.8%)となっている。

●「運動に関すること」に「取り組んでいる」または「少し取り組んでいる」人の割合は62.6%、「食生活に関すること」に「取り組んでいる」または「少し取り組んでいる」人の割合は84.6%で、いずれも前年度をやや下回る。



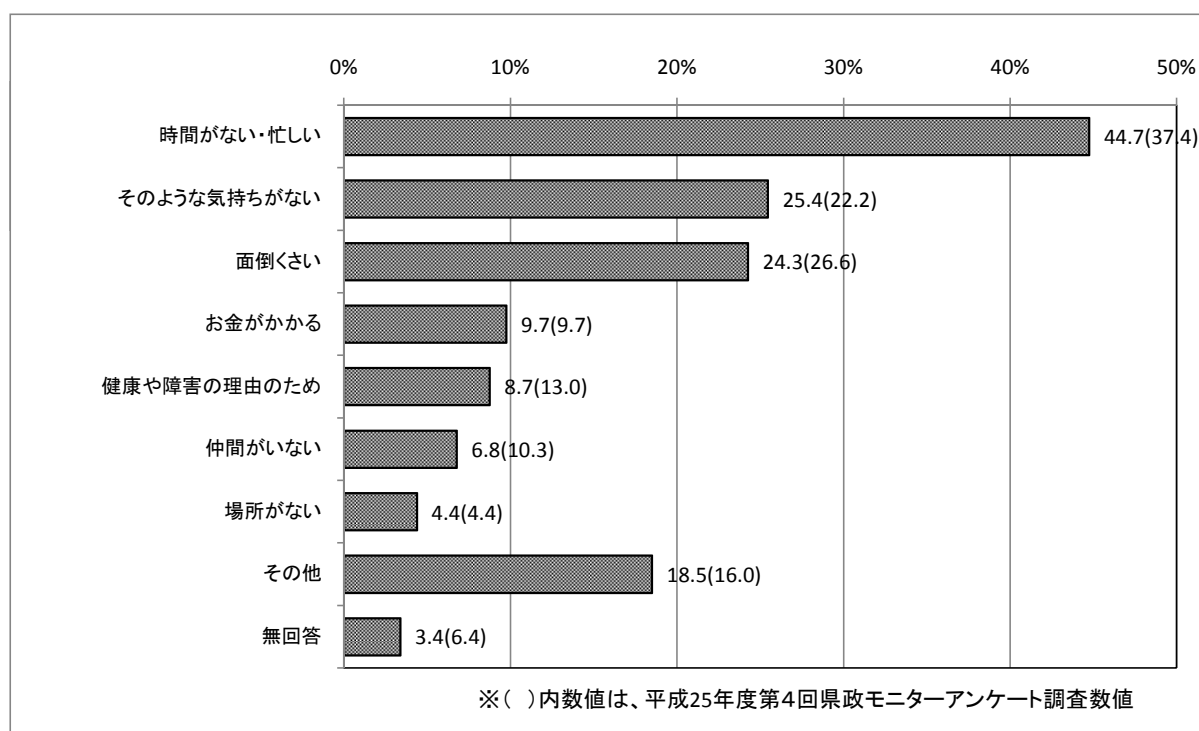
＜健康の維持・増進に関する取組を行わない理由＞

「時間がない・忙しい」が4割超、「そのような気持ちがない」、「面倒くさい」がそれぞれ2割超

問 問2の項目のうち、1項目でも「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」に○をした方は、その
2-2 理由をお答えください。(○はいくつでも)

	H26年度 n=503		(参考)H25年度 n=455	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
時間がない・忙しい	225	44.7	170	37.4
そのような気持ちがない	128	25.4	101	22.2
面倒くさい	122	24.3	121	26.6
お金がかかる	49	9.7	44	9.7
健康や障害の理由のため	44	8.7	59	13.0
仲間がいない	34	6.8	47	10.3
場所がない	22	4.4	20	4.4
その他	93	18.5	73	16.0
無回答	17	3.4	29	6.4

●「時間がない・忙しい」が44.7%と最も高く、次に「そのような気持ちがない」(25.4%)、「面倒くさい」(24.3%)が高くなっている。上位3項目は前年度と同じ。



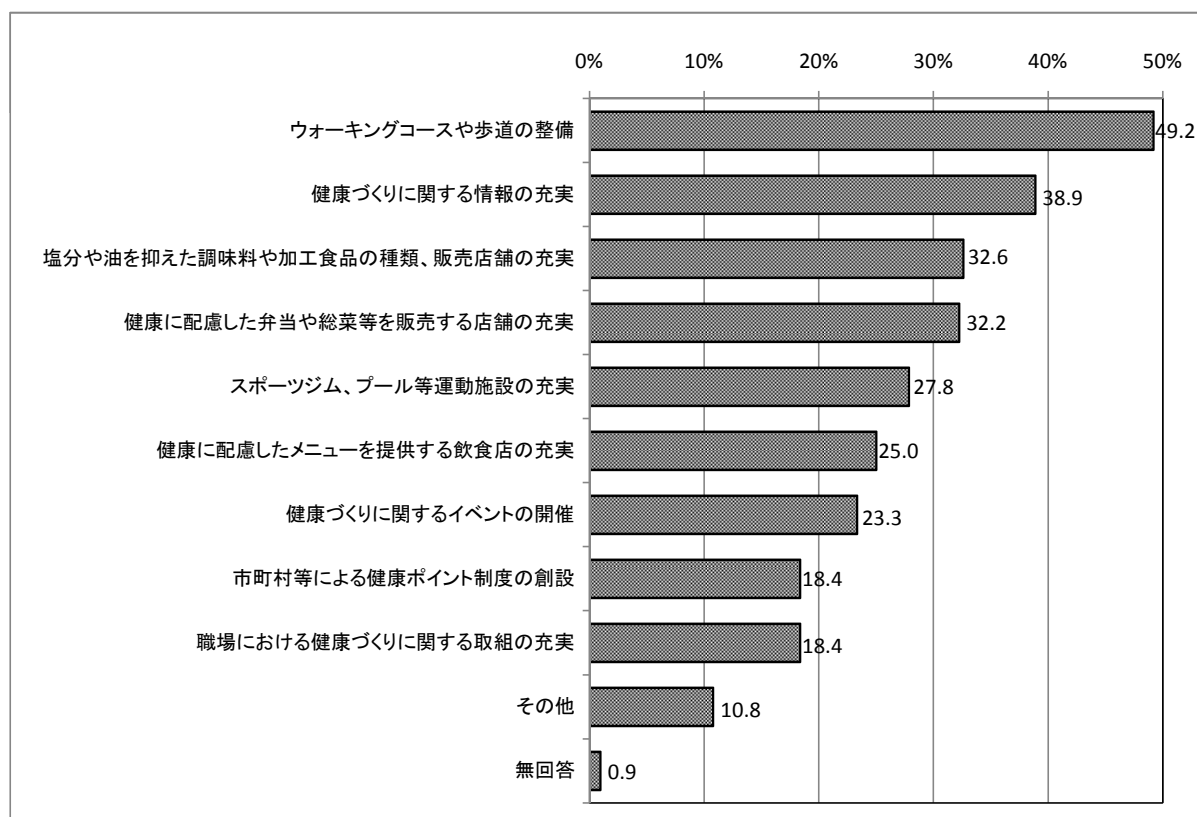
＜健康づくりを進める上で必要な環境づくり＞

「ウォーキングコースや歩道の整備」が約5割、「健康づくりに関する情報の充実」が約4割

問3 あなたは、ご自身の健康づくりを進める上で、どのような環境づくりが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	H26年度 n=844	
	回答数(人)	割合(%)
ウォーキングコースや歩道の整備	415	49.2
健康づくりに関する情報の充実	328	38.9
塩分や油を抑えた調味料や加工食品の種類、販売店舗の充実	275	32.6
健康に配慮した弁当や総菜等を販売する店舗の充実	272	32.2
スポーツジム、プール等運動施設の充実	235	27.8
健康に配慮したメニューを提供する飲食店の充実	211	25.0
健康づくりに関するイベントの開催	197	23.3
市町村等による健康ポイント制度の創設	155	18.4
職場における健康づくりに関する取組の充実	155	18.4
その他	91	10.8
無回答	8	0.9

● 「ウォーキングコースや歩道の整備」が49.2%と最も高く、次に「健康づくりに関する情報の充実」(38.9%)、「塩分や油を抑えた調味料や加工食品の種類、販売店舗の充実」(32.6%)「健康に配慮した弁当や総菜等を販売する店舗の充実」(32.2%)となっている。



【仕事・社会参加、地域に関する実感】

＜公共的活動への参加度＞

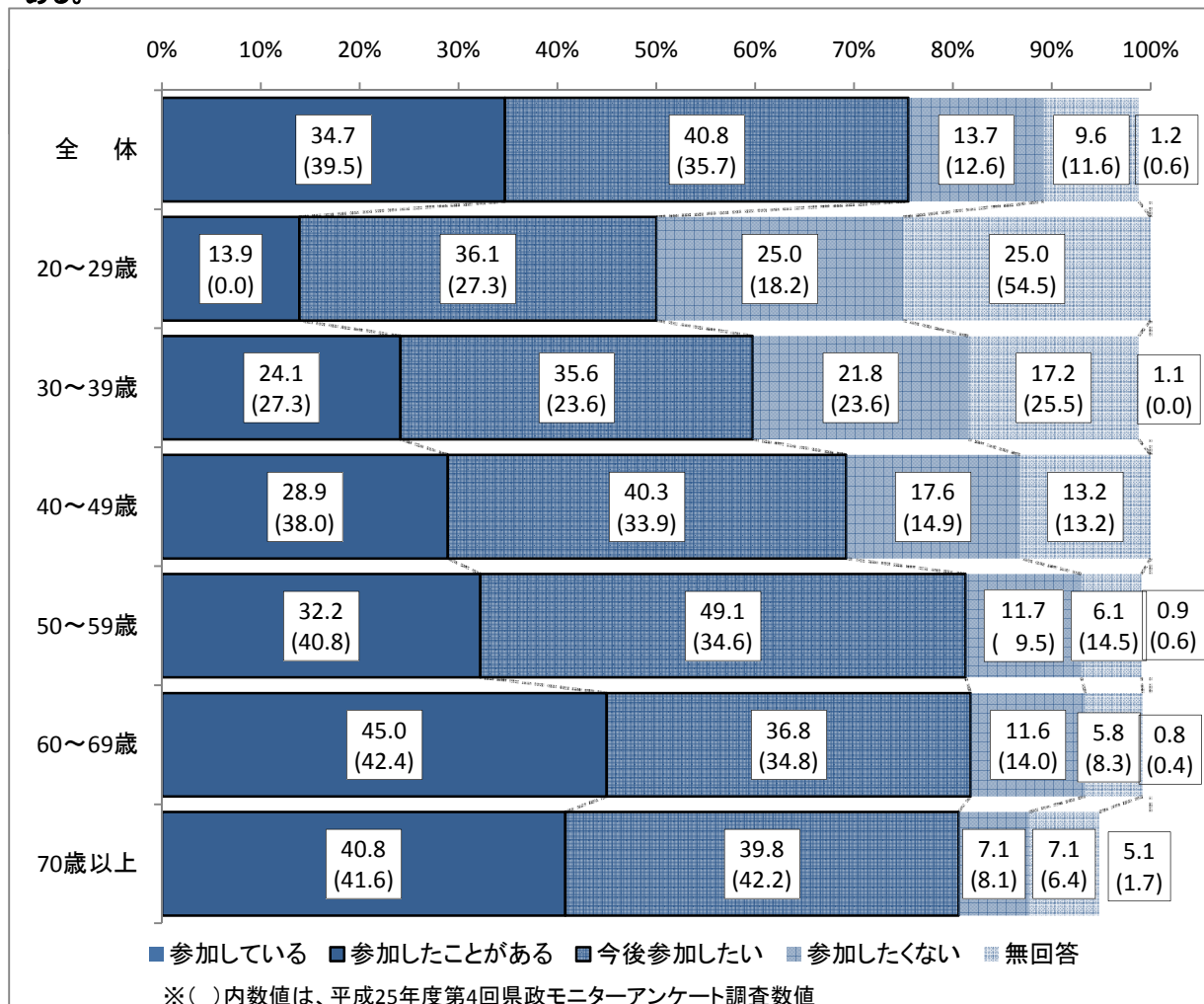
「参加している」と「参加したことがある」を合わせて7割超

問4 あなたは、今までに公共的活動(※)に参加したことがありますか。(○は一つ)

※公共的活動には、NPO法人、公益法人、市民活動団体、ボランティア団体、企業などが社会一般の利益のために行う活動や自治会、消防団、公民館などが地域のために行う活動のほか、それらの活動を寄付や募金などにより応援することを含みます。

	H26年度 n=844		(参考)H25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
現在、参加している	293	34.7	324	39.5
現在は参加していないが、今までに参加したことがある	344	40.8	293	35.7
参加したことはないが、今後は参加したい	116	13.7	103	12.6
参加したことがなく、今後も参加したいと思わない	81	9.6	95	11.6
無回答	10	1.2	5	0.6

●「参加している」割合、また「参加している」と「参加したことがある」割合は、年齢が上がるほど、高い傾向にある。



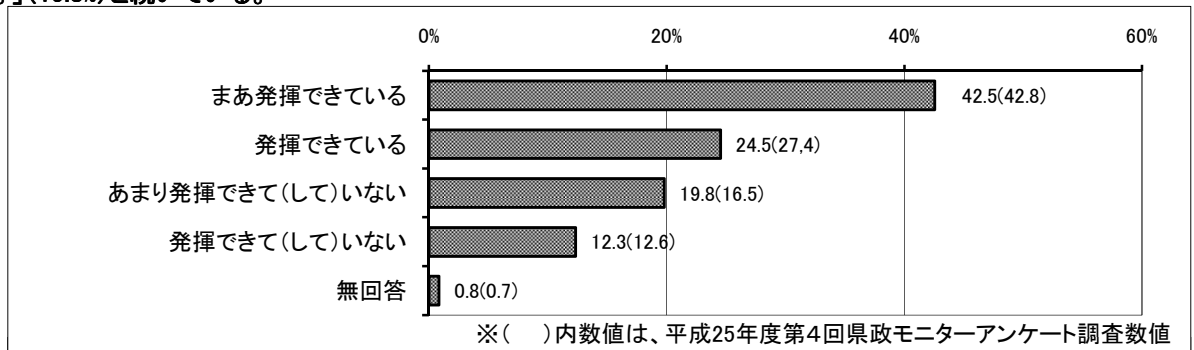
＜自分の能力の仕事や公共的活動での発揮＞

「発揮できている」と「まあ発揮できている」を合わせて7割弱
(前回調査(H26.1実施)より3.2ポイント減)

問5 あなたは自分の能力が仕事(収入のあるもの)あるいは公共的活動の両方又はどちらかで発揮できていると思いますか。(○は1つ)

	平成26年度 n=844		(参考) 平成25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
まあ発揮できている	359	42.5	351	42.8
発揮できている	207	24.5	225	27.4
あまり発揮できて(して)いない	167	19.8	135	16.5
発揮できて(して)いない	104	12.3	103	12.6
無回答	7	0.8	6	0.7

●「まあ発揮できている。」が42.5%と最も高く、次に「発揮できている」(24.5%)、「あまり発揮できて(して)いない」(19.8%)と続いている。



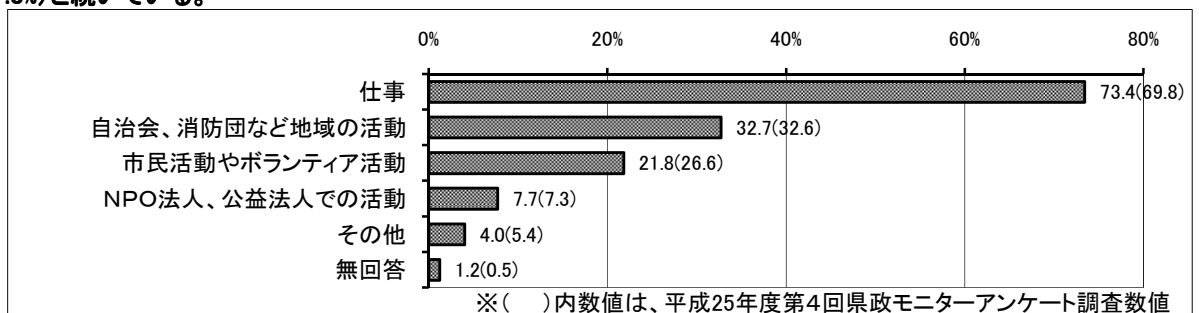
＜能力を発揮できていると思うもの＞

「仕事」が7割超、「自治会、消防団など地域の活動」が3割超

問5で①発揮できている、②まあ発揮できている、と答えた方にお伺いします。能力を発揮できていると思うものは何ですか。(○はいくつでも)

	平成26年度 n=568		(参考) 平成25年度 n=576	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
仕事	417	73.4	402	69.8
自治会、消防団など地域の活動	186	32.7	188	32.6
市民活動やボランティア活動	124	21.8	153	26.6
NPO法人、公益法人での活動	44	7.7	42	7.3
その他	23	4.0	31	5.4
無回答	7	1.2	3	0.5

●「仕事」が73.4%と最も高く、次に「自治会、消防団など地域の活動」(32.7%)、「市民活動やボランティア活動」(21.8%)と続いている。



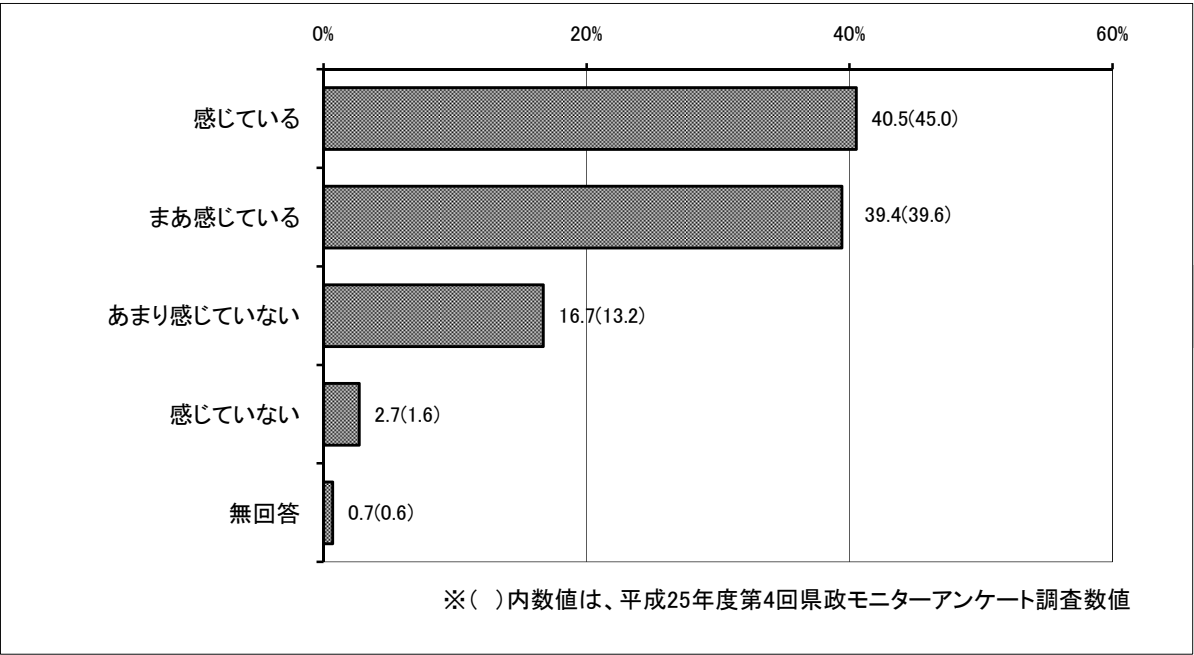
※「その他」としては「教育活動」、「スポーツ活動」、「美化活動」、「文化活動」、「農作業」等の回答が見られた。

＜地域の景観や自然、文化などへの誇り＞
「感じている」と「まあ感じている」を合わせて約8割を維持

問6 あなたは自分の暮らしている地域の景観や自然、文化などに誇りを感じていますか。(○は1つ)

	平成26年度 n=844		(参考) 平成25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
感じている	342	40.5	369	45.0
まあ感じている	332	39.4	325	39.6
あまり感じていない	141	16.7	108	13.2
感じていない	23	2.7	13	1.6
無回答	6	0.7	5	0.6

●「感じている。」が40.5%と最も高く、次に「まあ感じている。」(39.4%)、「あまり感じていない。」(16.7%)と続いている。



【文化芸術活動に関する実感】

＜文化芸術活動に参加した人の割合＞

過去1年間に文化芸術活動(鑑賞を含む)を行なった人は約6割で、前年度から微増

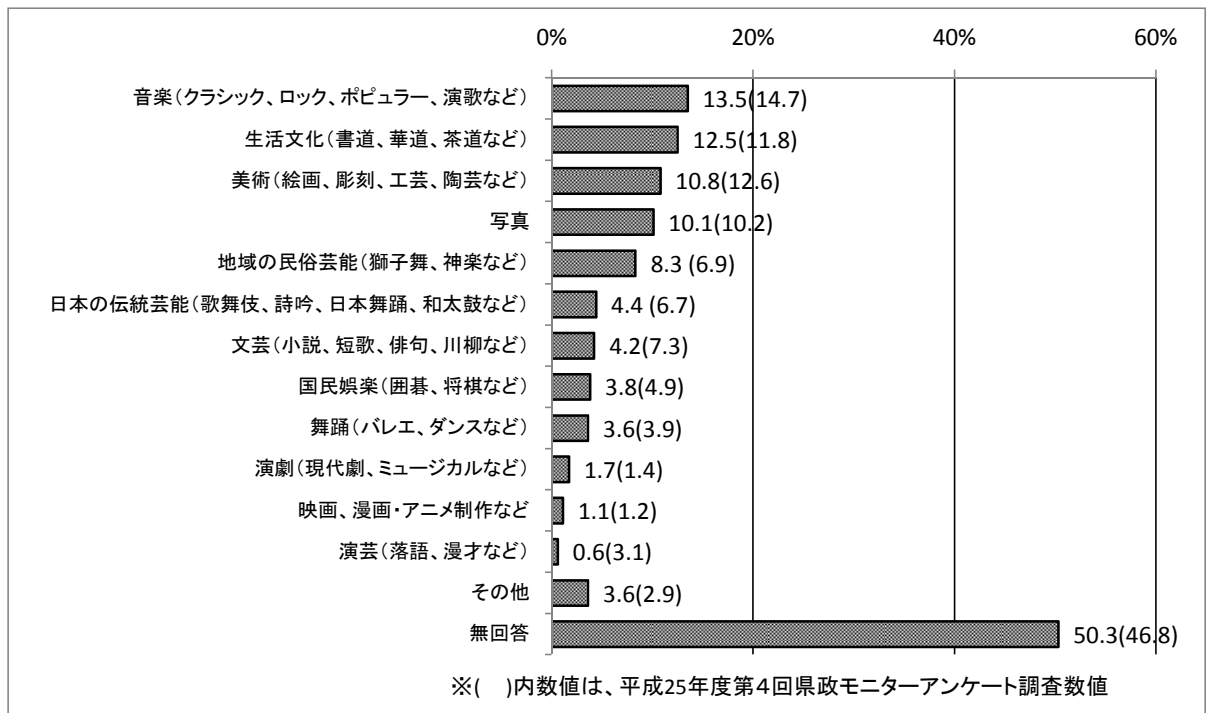
問7 あなたは過去1年間に文化芸術活動(鑑賞を含む)を行ないましたか。(○は1つ)

	H26年度 n=844		(参考) H25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
はい	527	62.4	491	59.9
いいえ	313	37.1	324	39.5
無回答	4	0.5	5	0.6

問7-A はい、と答えた方にお伺いします。あてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

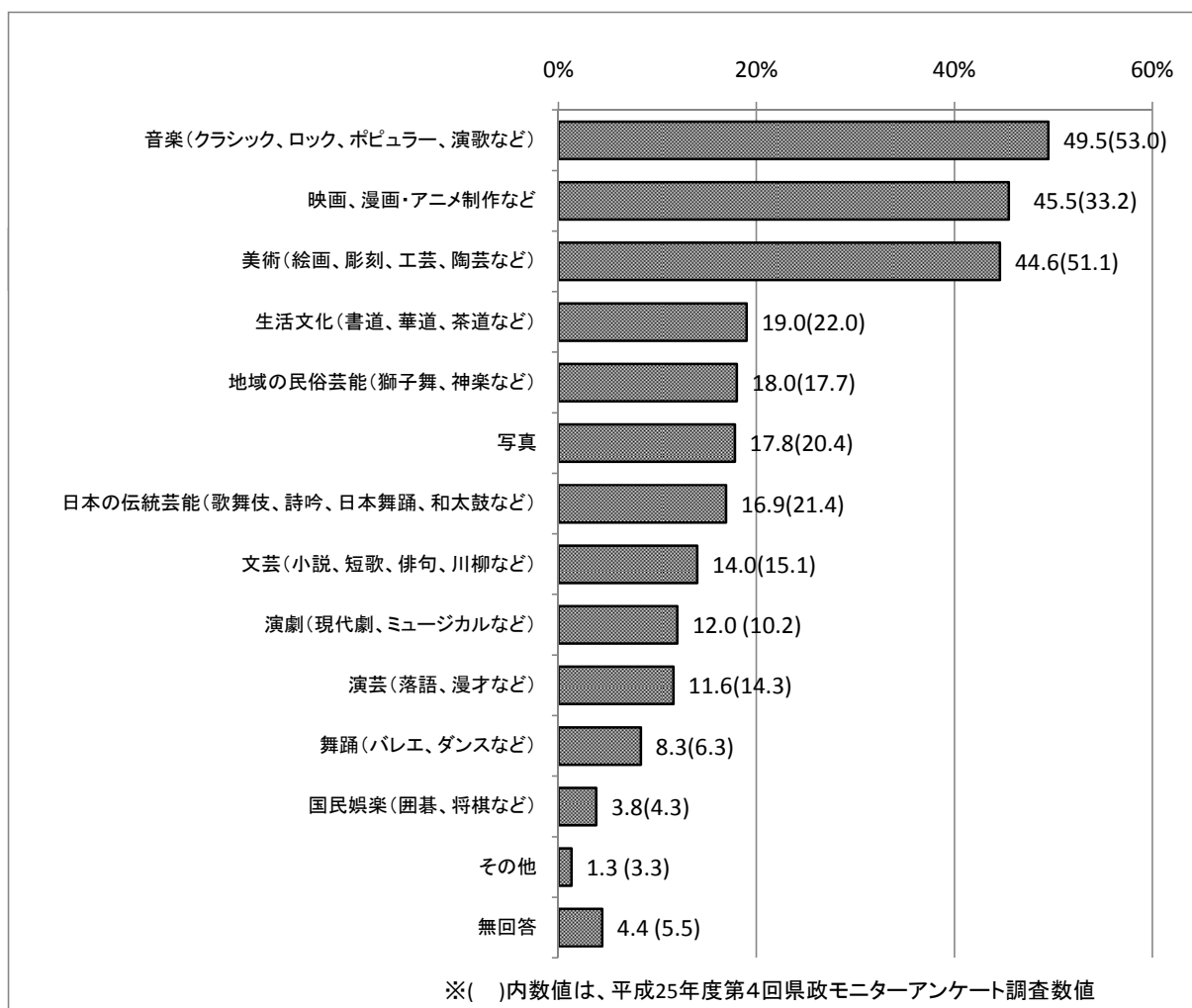
■ 自ら創作・参加する文化芸術活動を行なった	H26年度 n=527		(参考) H25年度 n=491	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	71	13.5	72	14.7
生活文化(書道、華道、茶道など)	66	12.5	58	11.8
美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	57	10.8	62	12.6
写真	53	10.1	50	10.2
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	44	8.3	34	6.9
日本の伝統芸能(歌舞伎、詩吟、日本舞踊、和太鼓など)	23	4.4	33	6.7
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	22	4.2	36	7.3
国民娯楽(囲碁、将棋など)	20	3.8	24	4.9
舞踊(バレエ、ダンスなど)	19	3.6	19	3.9
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	9	1.7	7	1.4
映画、漫画・アニメ制作など	6	1.1	6	1.2
演芸(落語、漫才など)	3	0.6	15	3.1
その他	19	3.6	14	2.9
無回答	265	50.3	230	46.8

●自ら創作・参加した文化芸術活動は「音楽」、「生活文化」、「美術」、「写真」が比較的多い。
上位4位の分野は前年度と同じ。



■ 文化芸術活動の鑑賞活動を行なった	平成26年度 n=527		(参考) 平成25年度 n=491	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	261	49.5	260	53.0
映画、漫画・アニメ制作など	240	45.5	163	33.2
美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	235	44.6	251	51.1
生活文化(書道、華道、茶道など)	100	19.0	108	22.0
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	95	18.0	87	17.7
写真	94	17.8	100	20.4
日本の伝統芸能(歌舞伎、詩吟、日本舞踊、和太鼓など)	89	16.9	105	21.4
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	74	14.0	74	15.1
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	63	12.0	50	10.2
演芸(落語、漫才など)	61	11.6	70	14.3
舞踊(バレエ、ダンスなど)	44	8.3	31	6.3
国民娯楽(囲碁、将棋など)	20	3.8	21	4.3
その他	7	1.3	16	3.3
無回答	23	4.4	27	5.5

●鑑賞活動は「音楽」が49.5%と最も高く、次に「映画、漫画・アニメ制作など」(45.5%)、「美術」(44.6%)が 高い割合となっている。



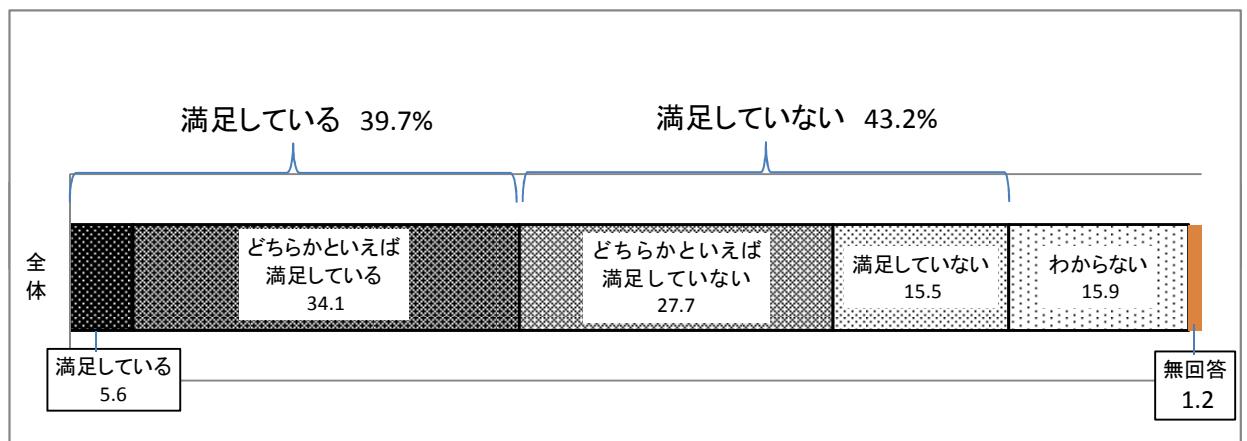
＜住んでいる地域の文化的環境の満足度＞

「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせて4割超が「満足していない」

問8 あなたは、あなたが住んでいる地域の文化的環境、例えば、鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備などに満足していますか。(○は1つ)

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
満足している		47	5.6
どちらかといえば満足している		288	34.1
どちらかといえば満足していない		234	27.7
満足していない		131	15.5
わからない		134	15.9
無回答		10	1.2

●「どちらかといえば満足している」(34.1%)が最も高く、次に「どちらかといえば満足していない」(27.7%)、「満足していない」(15.5%)と続いている。

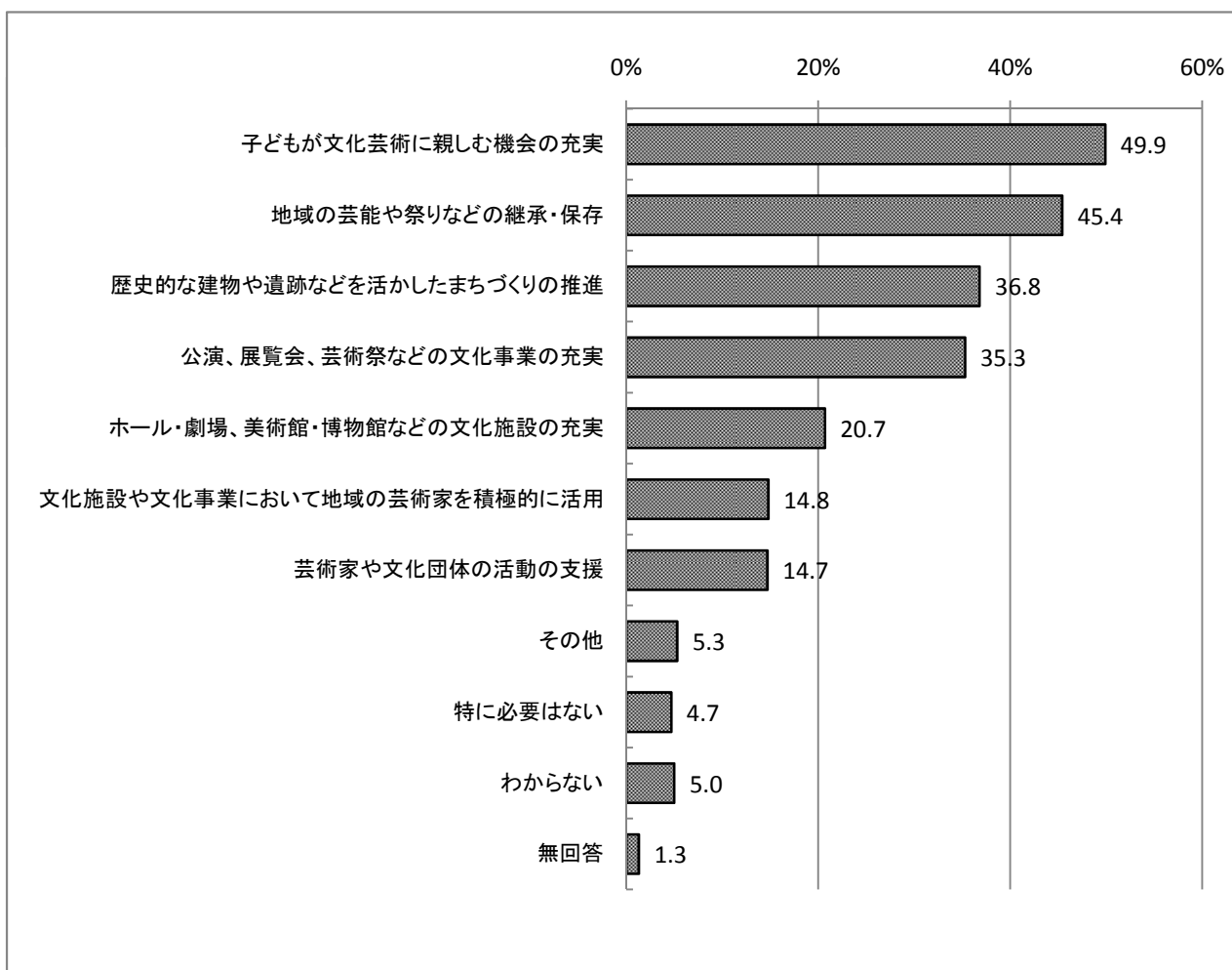


＜地域の文化的環境の充実に必要な事項＞
「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が約5割

問9 あなたは、あなたが住んでいる地域の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
子どもが文化芸術に親しむ機会の充実		421	49.9
地域の芸能や祭りなどの継承・保存		383	45.4
歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進		311	36.8
公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実		298	35.3
ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実		175	20.7
文化施設や文化事業において地域の芸術家を積極的に活用		125	14.8
芸術家や文化団体の活動の支援		124	14.7
その他		45	5.3
特に必要はない		40	4.7
わからない		42	5.0
無回答		11	1.3

●「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が約5割(49.9%)と高く、次に「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」(45.4%)が高い割合となっている。



【運動・スポーツに関する実感】

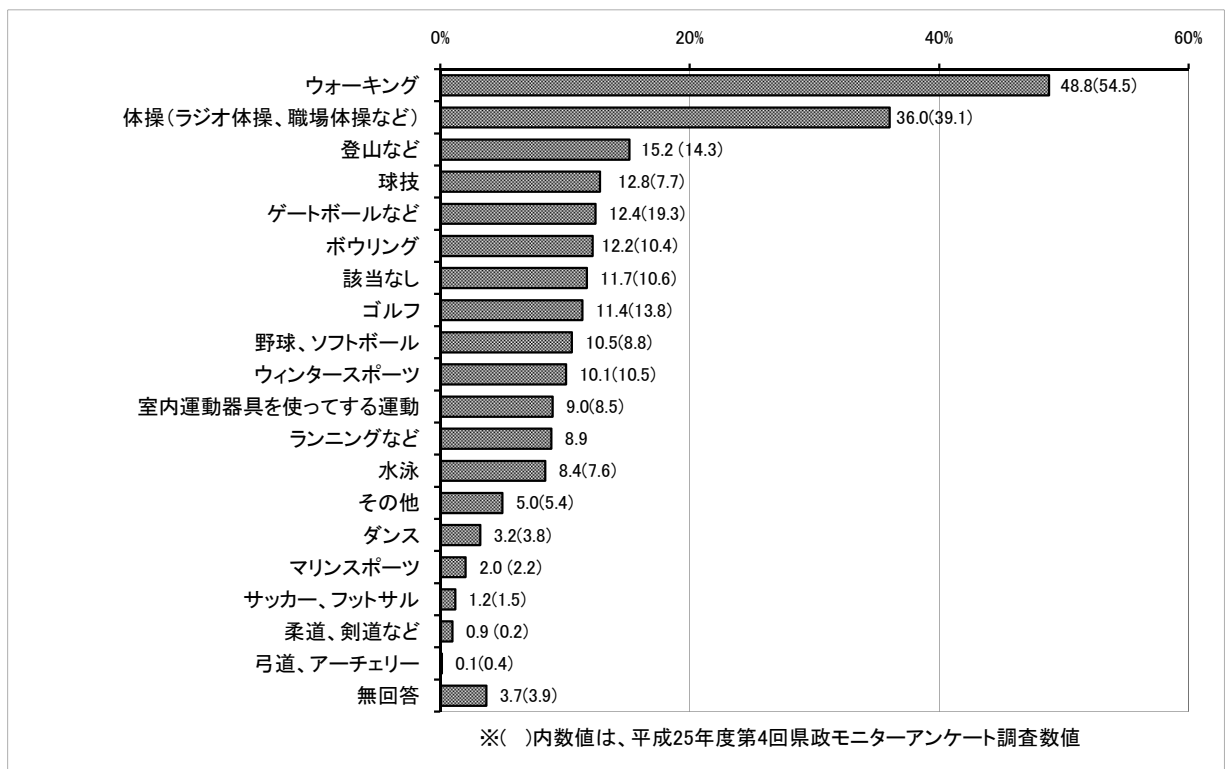
＜この1年間に行った運動・スポーツの種類＞
ウォーキングが約5割、体操が3割超

問10 この中にあなたが過去1年間に行なった運動・スポーツがあればあげてください。学校の体育の授業として行ったものや、職業として行ったものは除きます。(〇は5つまで)

	平成26年度 n=844		(参考) 平成25年度n=820	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ウォーキング(インターバル速歩、歩け歩け運動、散歩など)	412	48.8	447	54.5
体操(ラジオ体操、ご当地オリジナル体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びなど)	304	36.0	321	39.1
登山(クライミングを含む)、キャンプ、ハイキング、ワンダーフォーゲル	128	15.2	117	14.3
球技(バレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトテニス、バドミントンなど)	108	12.8	63	7.7
ゲートボール、グラウンドゴルフ、マレットゴルフ	105	12.4	158	19.3
ボウリング	103	12.2	85	10.4
該当なし	99	11.7	87	10.6
ゴルフ	96	11.4	113	13.8
野球、ソフトボール(キャッチボールなど含む)	89	10.5	72	8.8
ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど)	85	10.1	86	10.5
室内運動器具を使ってする運動	76	9.0	70	8.5
ランニング(ジョギング)、陸上競技	75	8.9	-	-
水泳	71	8.4	62	7.6
その他	42	5.0	44	5.4
ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、民謡踊りなど)	27	3.2	31	3.8
マリンスポーツ(ボート、ヨット、カヌー、釣りなど)	17	2.0	18	2.2
サッカー、フットサル	10	1.2	12	1.5
柔道、剣道、空手、すもう、ボクシング、レスリング	8	0.9	2	0.2
弓道、アーチェリー	1	0.1	3	0.4
無回答	31	3.7	32	3.9

注) 平成25年度調査では、「ランニング(ジョギング)、陸上競技」は、「ウォーキング」の項目に含めて実施。

●「ウォーキング(インターバル速歩、歩け歩け運動、散歩など)」が48.8%と最も高く、次に「体操(ラジオ体操、ご当地オリジナル体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びなど)」(36.0%)が高い割合となっている。

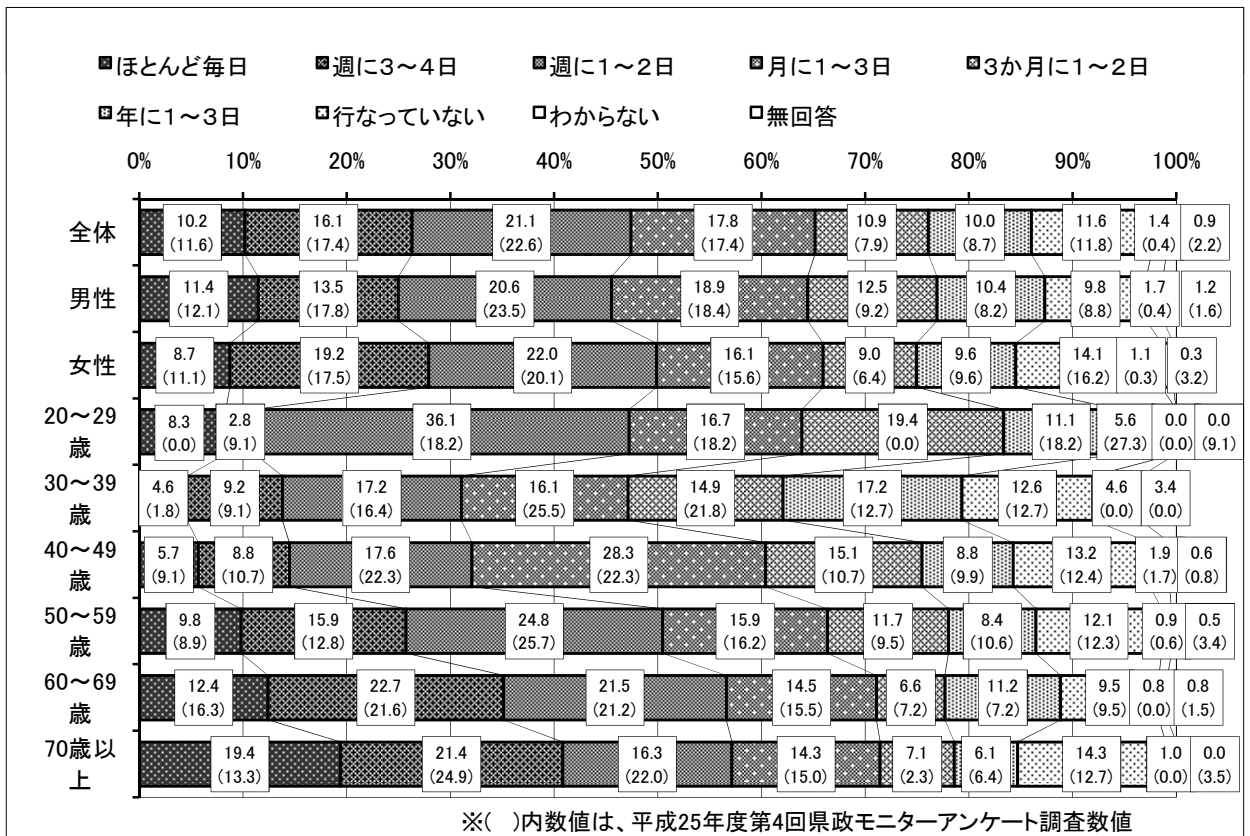


＜この1年間に運動・スポーツを行った日数＞
週1日以上運動・スポーツを行っている人が5割弱

問11 問10で挙げた種目を含め、あなたは過去1年間に運動・スポーツを何日ぐらい行いましたか。全く行わなかった方もお答えください。(〇は1つ)

	平成26年度 n=844		(参考) 平成25年度 n=820	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
ほとんど毎日	86	10.2	95	11.6
週に3～4日	136	16.1	143	17.4
週に1～2日	178	21.1	185	22.6
月に1～3日	150	17.8	143	17.4
3か月に1～2日	92	10.9	65	7.9
年に1～3日	84	10.0	71	8.7
行なっていない	98	11.6	97	11.8
わからない	12	1.4	3	0.4
無回答	8	0.9	18	2.2

●週1回以上運動・スポーツを行っている人は男性より女性が多い。世代別では70歳以上が57.1%と最も多く、最も少ない30歳代の31.0%を大幅に上回った。



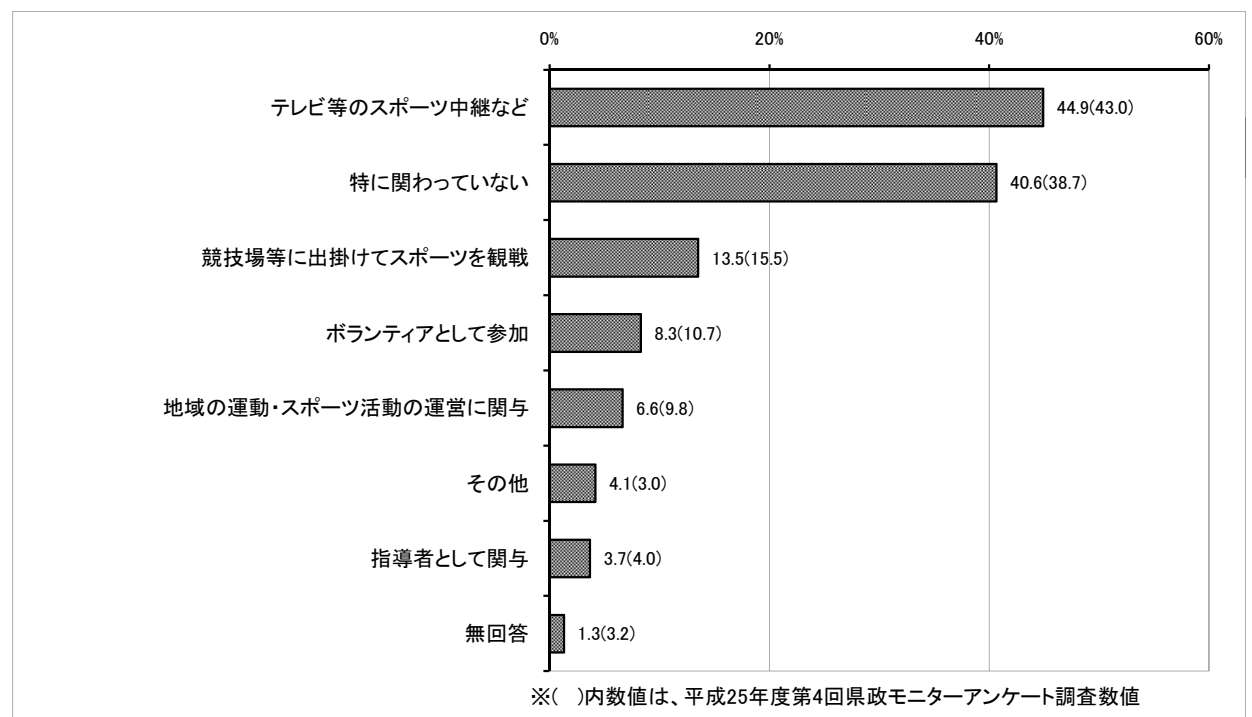
<運動・スポーツをする以外の関わり方>

「テレビ等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している」人が4割超

問12 あなたは自ら運動・スポーツをする以外に、運動・スポーツにどのような関わり方をしていますか。(〇は
いくつでも)

	平成26年度 n=844		(参考) 平成25年度n=820	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している。	379	44.9	353	43.0
特に関わっていない	343	40.6	317	38.7
競技場等に出掛け、スポーツを観戦する。	114	13.5	127	15.5
各種運動・スポーツ行事、大会、教室等へボランティアとして参加している。	70	8.3	88	10.7
地域の運動・スポーツ活動の運営に携わっている。	56	6.6	80	9.8
その他	35	4.1	25	3.0
指導者として関わっている。	31	3.7	33	4.0
無回答	11	1.3	26	3.2

●「テレビ等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している。」が44.9%と最も高く、「特に関わっていない」(40.6%)に続いて、「競技場等に出掛け、スポーツを観戦する。」(13.5%)が高い割合となっている。



【信州ブランド戦略の認知度】

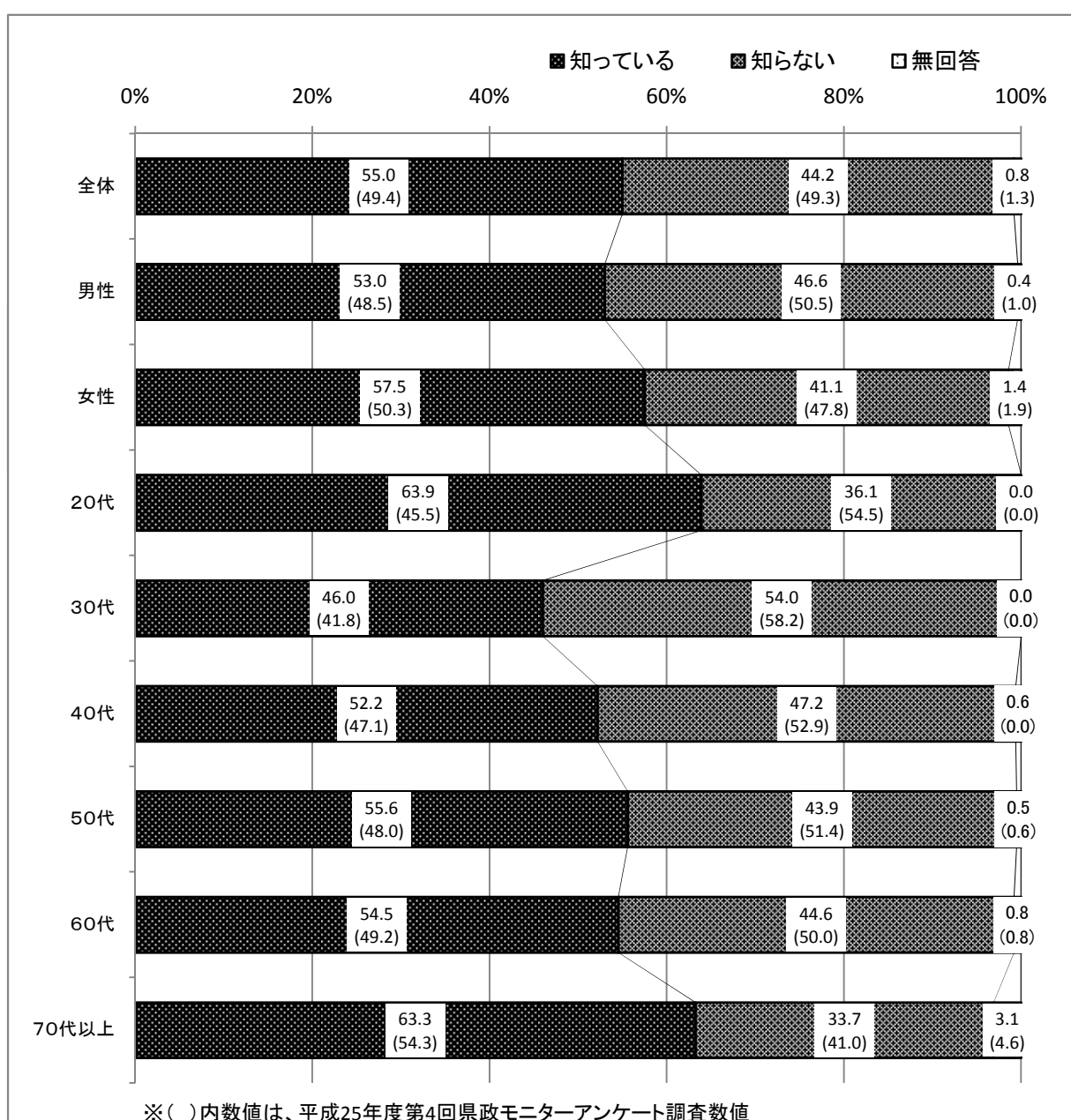
＜信州ブランド戦略キャッチフレーズ「しあわせ信州」の認知度＞

「しあわせ信州」という言葉を「知っている(聞いたことがある)」が5割超で、昨年度から微増

問13 「しあわせ信州」という言葉を知っていますか。または聞いたことがありますか。(〇は一つ)

	n= 844	回答数(人)	割合(%)	H25年度 n= 820	回答数(人)	割合(%)
知っている(聞いたことがある)		464	55.0		405	49.4
知らない(聞いたことがない)		373	44.2		404	49.3
無回答		7	0.8		11	1.3

●「知っている(聞いたことがある)」が55.0%で5割を超えた。年代別では20代や70代が高くなっている。

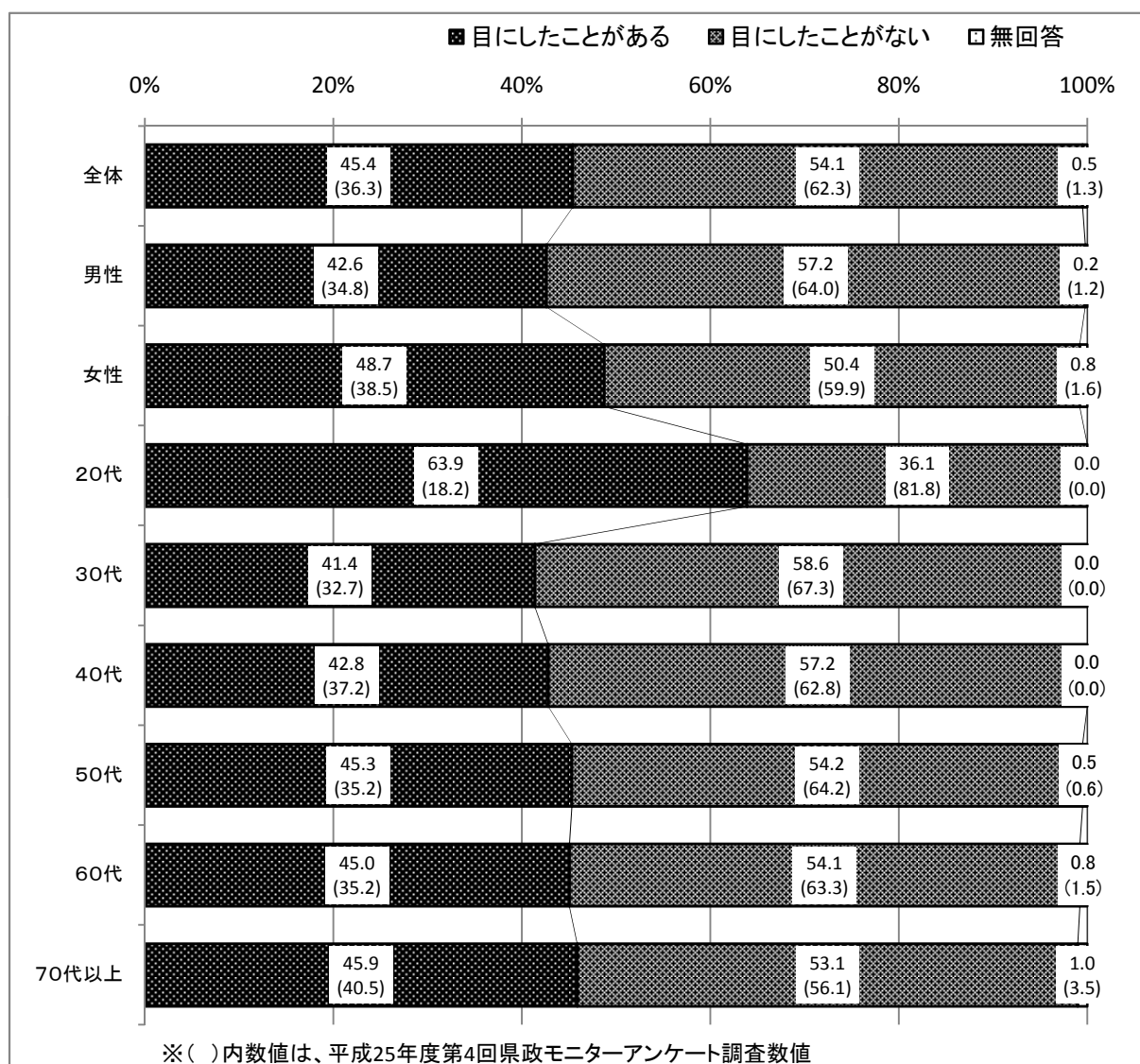


＜信州ブランド戦略ロゴマーク「信州ハート」の認知度＞
「信州ハート」を「目にしたことがある」が4割超で、昨年度から微増

問14 あなたは「信州ハート」を目にしたことがありますか。(○は1つ)

	n= 844	回答数(人)	割合(%)	H25年度 n= 820	回答数(人)	割合(%)
目にしたことがある		383	45.4		298	36.3
目にしたことがない		457	54.2		511	62.3
無回答		4	0.5		11	1.3

●「目にしたことがある」が45.4%で昨年度より上昇した。年代別では、20代の認知度が63.9%と高くなっている。

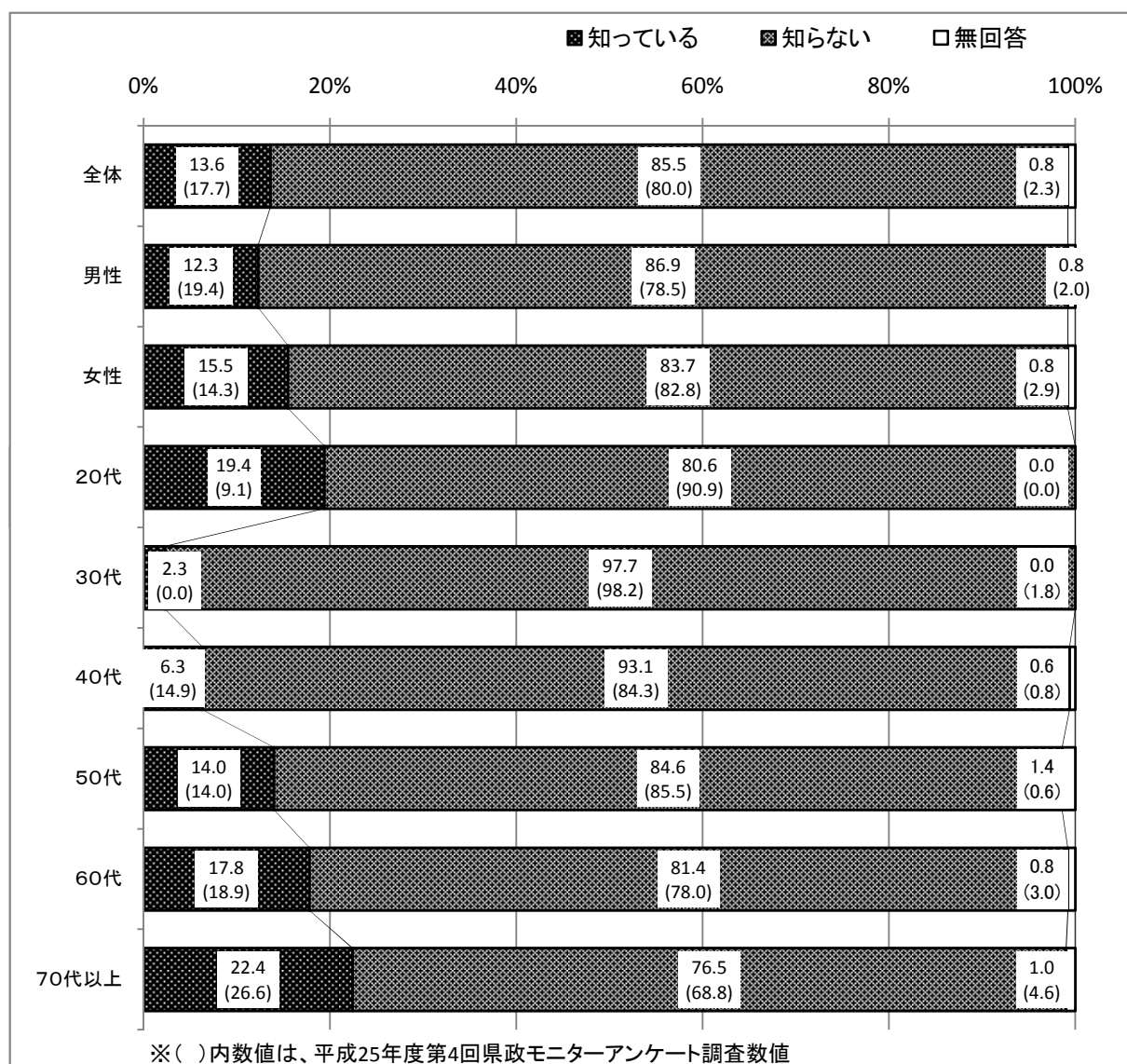


<信州ブランド戦略ロゴマーク「信州ハート」の認知度>
意味を「知っている」が1割超で昨年度より微減

問15 あなたは「信州ハート」に込められた意味を知っていますか(○は1つ)

	n= 844	回答数(人)	割合(%)	H25年度 n= 820	回答数(人)	割合(%)
知っている		115	13.6	145	17.7	
知らない		722	85.6	656	80.0	
無回答		7	0.8	19	2.3	

●「知っている」が13.6%となり、昨年度より低下。年代別では特に30代が2.3%と低くなっている。



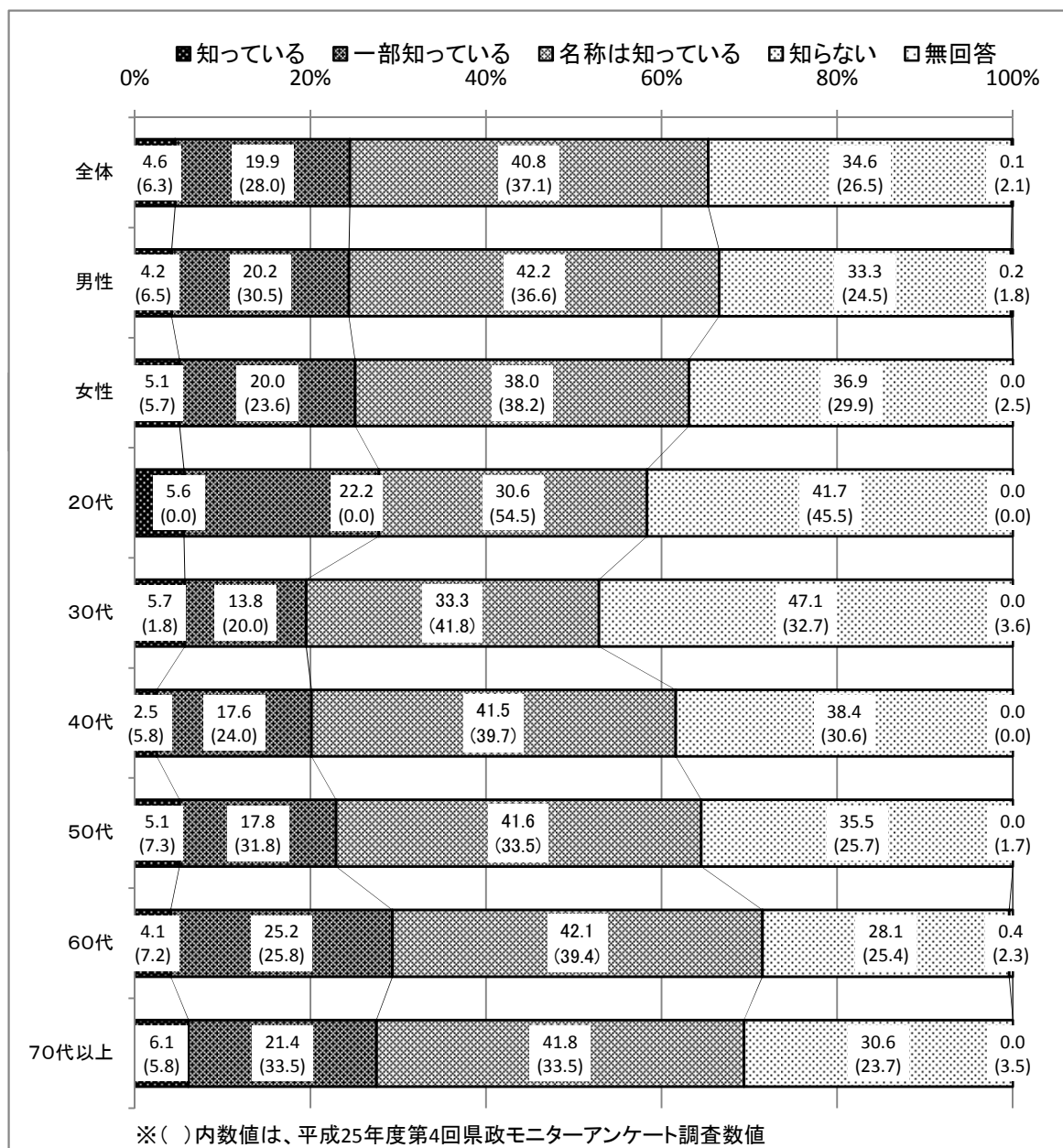
<「信州ブランド戦略」の認知度について>

「内容も含め知っている」「内容は一部知っている」「名称は知っている」を合わせて7割弱

問16 あなたは県がブランド戦略「信州ブランド戦略」を進めていることを知っていますか。
(○は1つ)

	n= 844	回答数(人)	割合(%)	H25年度 n= 820	
				回答数(人)	割合(%)
内容も含め知っている		39	4.6	52	6.3
内容は一部知っている		168	19.9	230	28.0
名称は知っている(聞いたことがある)		344	40.8	304	37.1
知らない(聞いたことがない)		292	34.6	217	26.5
無回答		1	0.1	17	2.1

●「内容も含め知っている」と「内容は一部知っている」「名称は知っている(聞いたことがある)」を合わせると65.3%となっている。



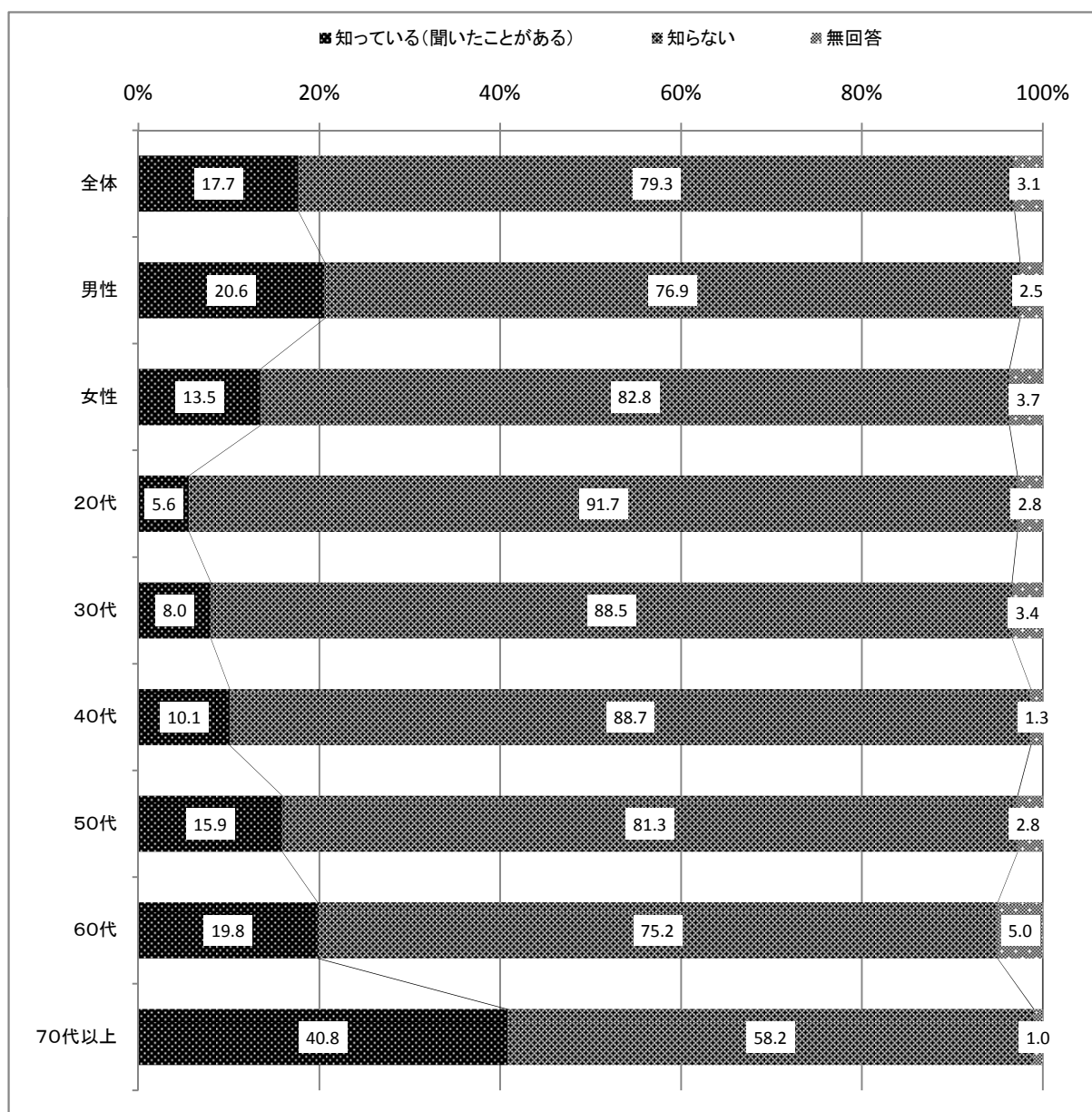
《「長野県廃棄物処理計画（第4期）」について》

＜長野県のご家庭ごみ等の減量化に関する認知度（長野県のご家庭ごみ等の減量化は全国トップクラス）＞
「知っている（聞いたことがある）」が約2割、「知らない」が約8割

問17 市町村の実施する分別回収への積極的な協力など県民の皆さまの取組により、長野県のご家庭ごみ等の減量化は、平成24年度実績では全国トップクラスです。あなたはこのことをご存知ですか。（○は1つ）

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
知っている(聞いたことがある)		149	17.7
知らない		669	79.3
無回答		26	3.1

●男性の認知度は女性の約1.5倍となっている。また、年代が上がるにつれて認知度が高くなっており、「知っている（聞いたことがある）」と回答しているのは20代では約6%であるのに対し、70代以上では約4割となっている。



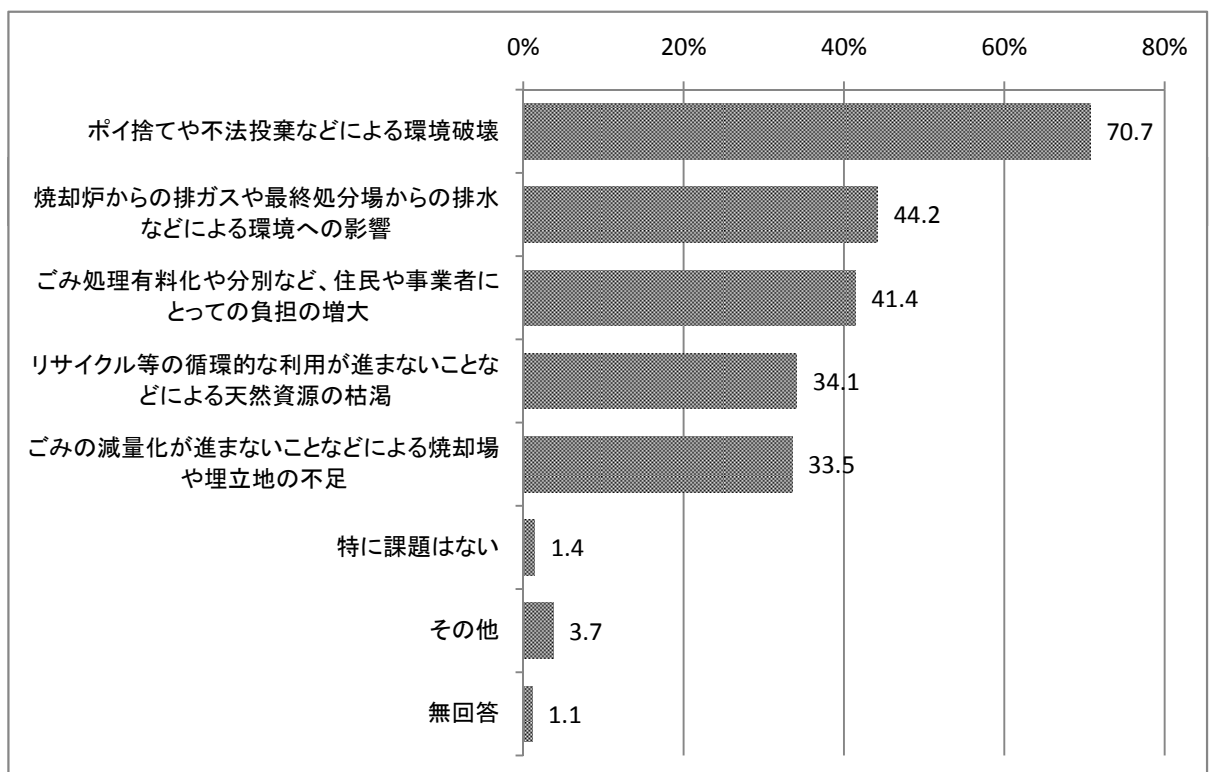
＜廃棄物にまつわる課題の関心分野＞
「ポイ捨てや不法投棄などによる環境破壊」が約7割

問18 廃棄物にまつわる課題について、特にどのようなことに関心がありますか。(○は3つまで)

【参考】H22(n=670)

n= 844	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ポイ捨てや不法投棄などによる環境破壊	597	70.7	532	79.4
焼却炉からの排ガスや最終処分場からの排水などによる環境への影響	373	44.2	275	41.0
ごみ処理有料化や分別など、住民や事業者にとっての負担の増大	349	41.4	263	39.3
リサイクル等の循環的な利用が進まないことなどによる天然資源の枯渇	288	34.1	225	33.6
ごみの減量化が進まないことなどによる焼却場や埋立地の不足	283	33.5	362	54.0
特に課題はない	12	1.4	12	1.8
その他	31	3.7	8	1.2
無回答	9	1.1	0	0.0

●「ポイ捨てや不法投棄などによる環境破壊」が70.7%と最も高く、次に「焼却炉からの排ガスや最終処分場からの排水などによる環境への影響」(44.2%)、「ごみ処理有料化や分別など、住民や事業者にとっての負担の増大」(41.4%)が高い割合となっている。



その他としては「製造・販売サイドでの包装の減量・簡素化」、「非効率的なリサイクルによる資源の浪費」、「高齢化独居家庭でのゴミ出し」等が見られた。

＜廃棄物にまつわる課題の解決策＞

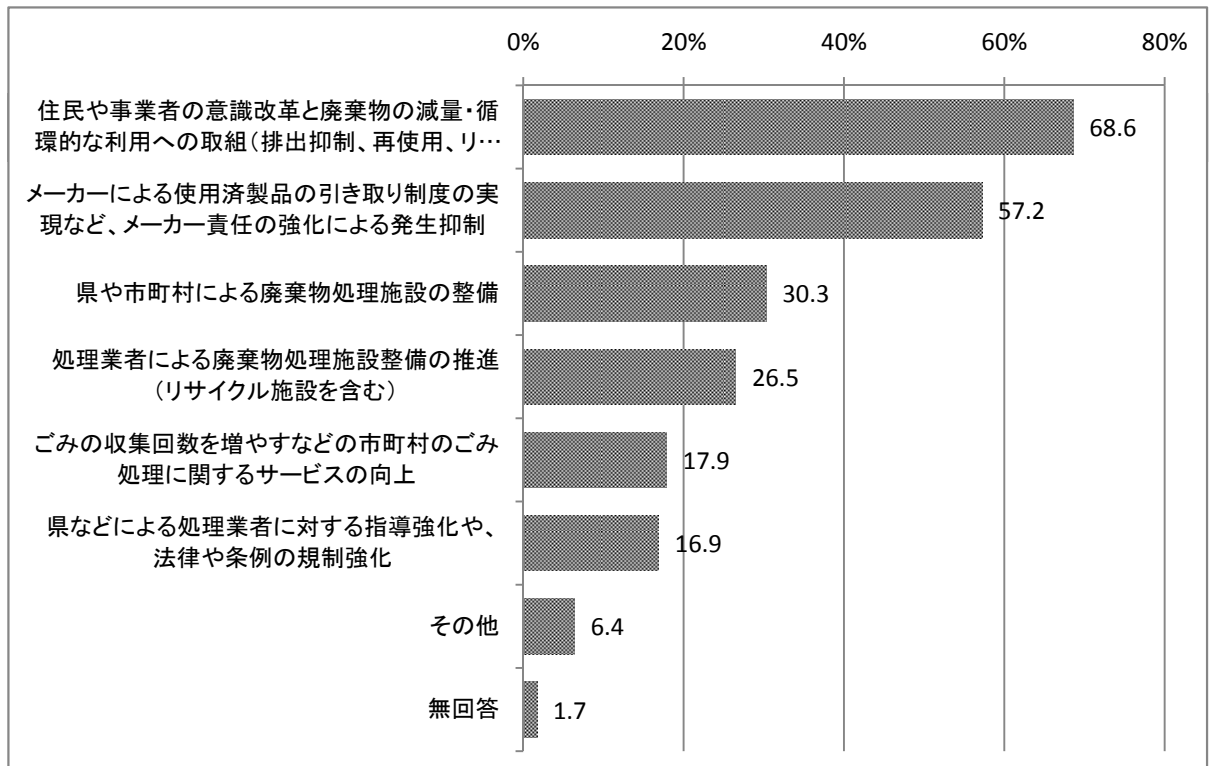
「住民や事業者の意識改革と廃棄物の減量・循環的な利用への取組」が約7割

問19 問18で特に関心をお持ちの廃棄物に関する課題は、どのように解決すべきだと思いますか。
(○は3つまで)

【参考】H22(n=670)

n= 844	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
住民や事業者の意識改革と廃棄物の減量・循環的な利用への取組(排出抑制、再使用、リサイクルの推進)	579	68.6	519	77.5
メーカーによる使用済製品の引き取り制度の実現など、メーカー責任の強化による発生抑制	483	57.2	406	60.6
県や市町村による廃棄物処理施設の整備	256	30.3	225	33.6
処理業者による廃棄物処理施設整備の推進(リサイクル施設を含む)	224	26.5	216	32.2
ごみの収集回数を増やすなどの市町村のごみ処理に関するサービスの向上	151	17.9	87	13.0
県などによる処理業者に対する指導強化や、法律や条例の規制強化	143	16.9	153	22.8
その他	54	6.4	9	1.3
無回答	14	1.7	0	0.0

●「住民や事業者の意識改革と廃棄物の減量・循環的な利用への取組(排出抑制、再使用、リサイクルの推進)」が68.6%と最も高く、次に「メーカーによる使用済製品の引き取り制度の実現など、メーカー責任の強化による発生抑制」(57.2%)、「県や市町村による廃棄物処理施設の整備」(30.3%)が高い割合となっている。



その他としては「家庭、学校での子どもたちに対する環境・リサイクル・資源の教育」、「家庭からの生ごみのコンポスト化」、「分別・リサイクルしやすい製品の充実」、「過大包装の削減や小売や計り売り」等が見られた。

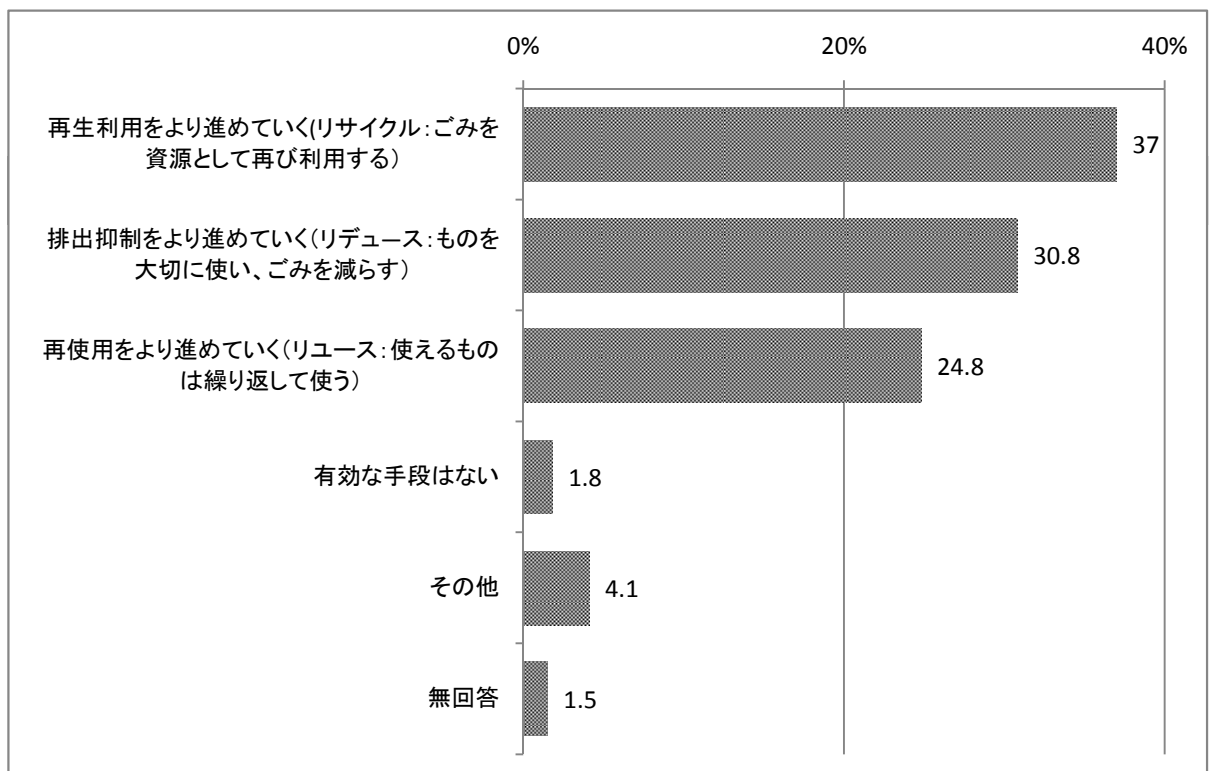
＜循環型社会への転換のために有効な取組＞

「再生利用をより進めていく(リサイクル:ごみを資源として再び利用する)」が4割弱

大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルは、大量の廃棄物を生み出しました。このような
問20 「使い捨て型社会」から脱し、「循環型社会」への転換を進めていくには、どのような取組が有効
だと思いますか。(〇は1つ)

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
再生利用をより進めていく(リサイクル:ごみを資源として再び利用する)		312	37.0
排出抑制をより進めていく(リデュース:ものを大切に使い、ごみを減らす)		260	30.8
再使用をより進めていく(リユース:使えるものは繰り返して使う)		209	24.8
有効な手段はない		15	1.8
その他		35	4.1
無回答		13	1.5

●「再生利用をより進めていく(リサイクル:ごみを資源として再び利用する)」が37.0%と最も高く、次に「排出抑制をより進めていく(リデュース:ものを大切に使い、ごみを減らす)」(30.8%)、「再使用をより進めていく(リユース:使えるものは繰り返して使う)」(24.8%)の順番となっている。



その他としては「過大な包装をやめる」、「必要なものしか購入しない」、「排出抑制、再使用、再生利用のすべてが必要」、「製造者がリサイクルを考えた製品を作る」等が見られた。

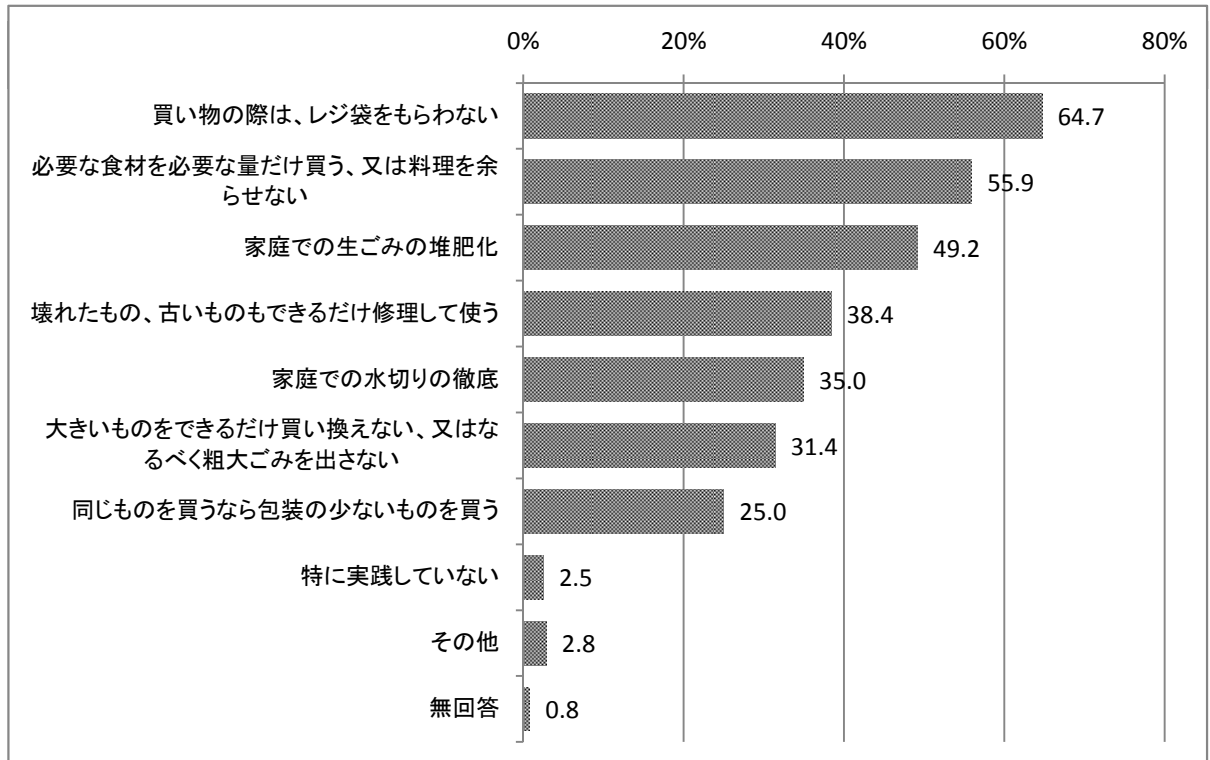
＜ごみ減量のために実践していること＞

「買い物の際は、レジ袋をもらわない」が6割超。次いで「必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない」が5割超など、買い物の際に発生抑制の取組に積極的。

問21 あなた自身、ごみ減量のためにどのようなことを実践していますか。(〇はいくつでも)

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
買い物の際は、レジ袋をもらわない		546	64.7
必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない		472	55.9
家庭での生ごみの堆肥化		415	49.2
壊れたもの、古いものもできるだけ修理して使う		324	38.4
家庭での水切りの徹底		295	35.0
大きいものをできるだけ買い換えない、又はなるべく粗大ごみを出さない		265	31.4
同じものを買うなら包装の少ないものを買う		211	25.0
特に実践していない		21	2.5
その他		24	2.8
無回答		7	0.8

●「買い物の際は、レジ袋をもらわない」が64.7%と最も高く、次に「必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない」(55.9%)、「家庭での生ごみの堆肥化」(49.2%)が高い割合となっている。



その他としては「ごみの分別の徹底」、「洗剤などは容器に詰め替える」、「不要衣類等は人に譲ったり、雑巾等として再利用」等が見られた。

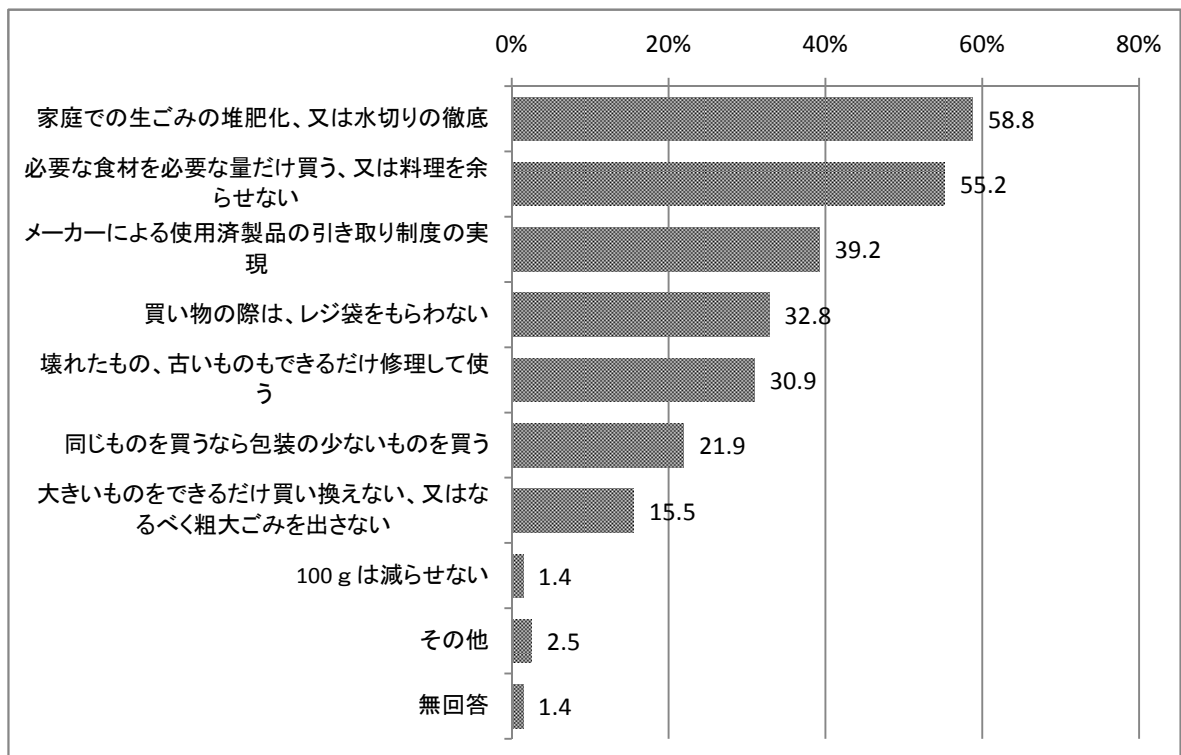
<1人1日100g減量のために有効な取組>

「家庭での生ごみの堆肥化、又は水切りの徹底」が約6割。次いで「必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない」が5割超

皆さまのご家庭でごみをこれから1人1日100g(1年間なら約37kg)減量するためには次のどれが有効だと思いますか。ご自身で行っていること、行っていないことにかかわらず、有効だと思うものをお答えください。(〇は3つまで)

	n= 844	回答数 (人)	割合 (%)
家庭での生ごみの堆肥化、又は水切りの徹底		496	58.8
必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない		466	55.2
メーカーによる使用済製品の引き取り制度の実現		331	39.2
買い物の際は、レジ袋をもらわない		277	32.8
壊れたもの、古いものもできるだけ修理して使う		261	30.9
同じものを買うなら包装の少ないものを買う		185	21.9
大きいものをできるだけ買い換えない、又はなるべく粗大ごみを出さない		131	15.5
100gは減らせない		12	1.4
その他		21	2.5
無回答		12	1.4

●「家庭での生ごみの堆肥化、又は水切りの徹底」が58.8%と最も高く、次に「必要な食材を必要な量だけ買う、又は料理を余らせない」(55.2%)、「メーカーによる使用済製品の引き取り制度の実現」(39.2%)が高い割合となっている。



その他としては「過大な包装をやめる」、「回答例のすべての項目を一人一人が意識する」、「ごみの分別の徹底と高齢者にもわかりやすくする」等が見られた。

＜ポイ捨て・不法投棄対策のために有効な取組＞

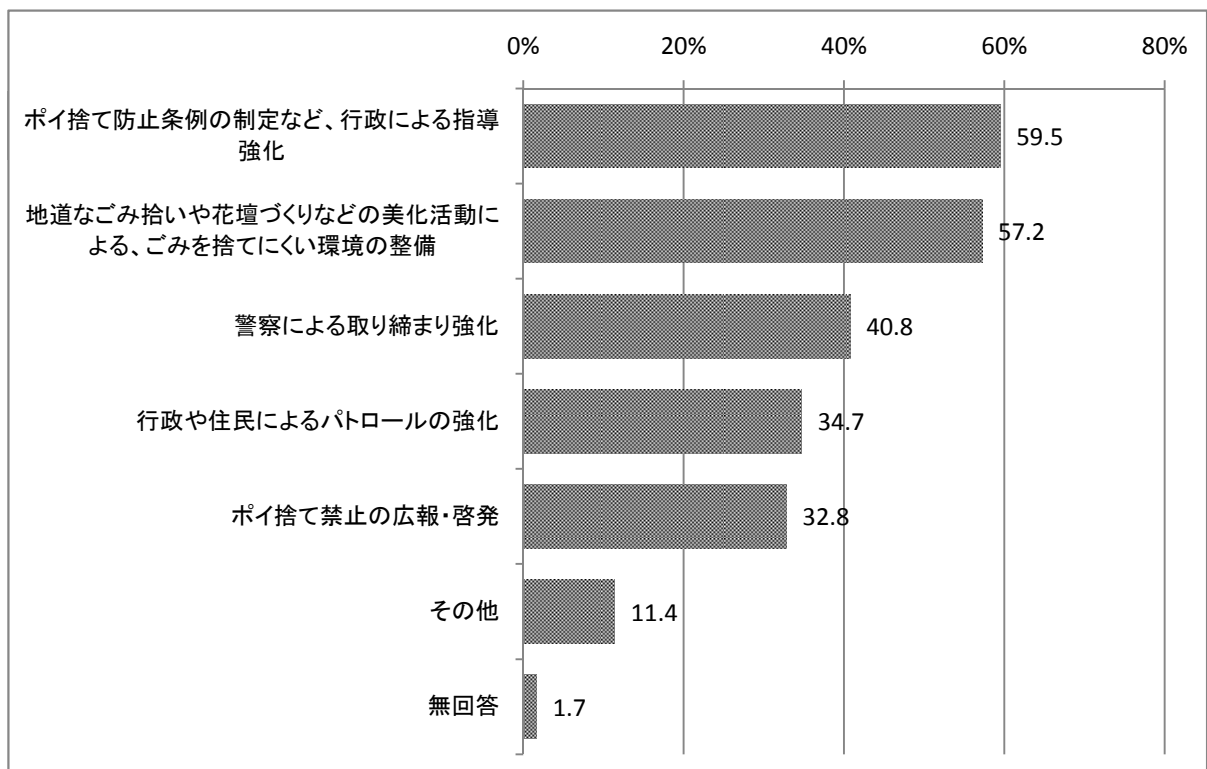
「行政による指導強化」が約6割、次いで「地道なごみ拾いや花壇づくりなどの美化活動による、ごみを捨てにくい環境の整備」が6割弱

問23 道路や河川敷へのごみのポイ捨てや不法投棄が後を絶ちません。そのような不法投棄をなくすためにはどのような取組が有効だと思いますか。(〇は3つまで)

【参考】H22(n=670)

n= 844	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ポイ捨て防止条例の制定など、行政による指導強化	502	59.5	325	48.5
地道なごみ拾いや花壇づくりなどの美化活動による、ごみを捨てにくい環境の整備	483	57.2	372	55.5
警察による取り締まり強化	344	40.8	341	50.9
行政や住民によるパトロールの強化	293	34.7	265	39.6
ポイ捨て禁止の広報・啓発	277	32.8	176	26.3
その他	96	11.4	25	3.7
無回答	14	1.7	0	0.0

●「ポイ捨て防止条例の制定など、行政による指導強化」が59.5%と最も高く、次に「地道なごみ拾いや花壇づくりなどの美化活動による、ごみを捨てにくい環境の整備」(57.2%)、「警察による取り締まり強化」(40.8%)が高い割合となっている。



その他としては「罰則の強化」、「モラルの問題」、「子どもの頃からの教育が必要」、「ごみの回収回数増加と分別指導が必要」等が見られた。

《「食べ残しを減らそう県民運動」について》

＜「食べ残しを減らそう県民運動」及びその一環の取組の認知度について＞
「食べ残しを減らそう県民運動」を「知っている」が約3割

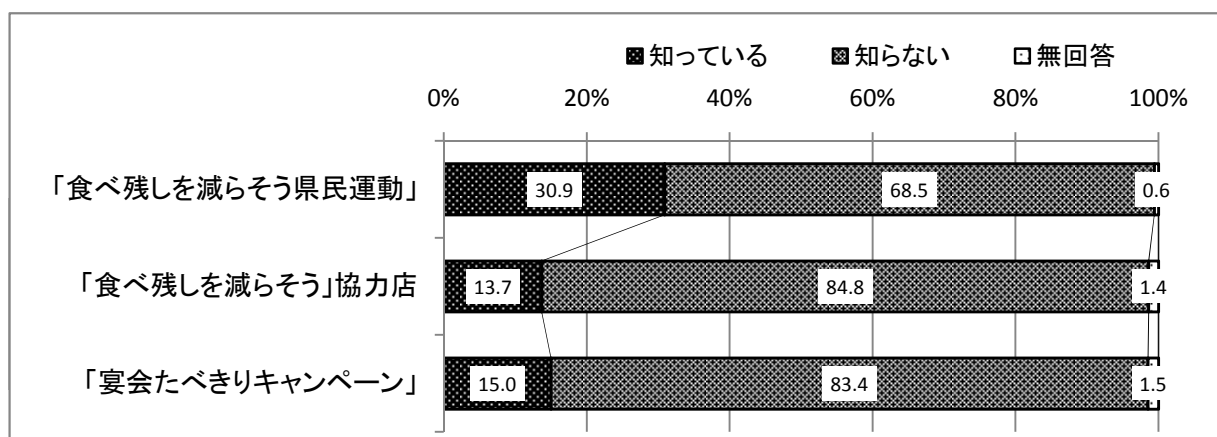
問24 あなたは次の取組をご存知ですか。

上段:回答数、下段:割合(%)

n=844	知っている (聞いたことがある)	知らない	無回答
① 「食べ残しを減らそう県民運動」(※1)	261 30.9	578 68.5	5 0.6
② 「食べ残しを減らそう」協力店(※2)	116 13.7	716 84.8	12 1.4
③ 「宴会たべきりキャンペーン」(※3)	127 15.0	704 83.4	13 1.5

●「食べ残しを減らそう県民運動」を「知っている」が30.9%。

●「食べ残しを減らそう」協力店を「知っている」が13.7%、「宴会たべきりキャンペーン」が15.0%



※1 「食べ残しを減らそう県民運動」

平成22年度から、生ごみの発生抑制を目的に、飲食店や宿泊施設での食べ残しを減らす取組や、家庭から出る生ごみを減らすための意識の向上に向けた取組を行っています。

※2 「食べ残しを減らそう」協力店

食べ残しを減らす取組を実践する県内の飲食店・宿泊施設を登録する制度として、「食べ残しを減らそう県民運動」の開始から県内全域で募集しています。

現在285店舗が登録(平成26年12月31日時点)しています。

○登録の要件

次に示す「食べ残しを減らす」取組項目を1つ以上実践すること

- (1)小盛メニュー等の導入
- (2)持ち帰り希望者への対応
- (3)食べ残しを減らすための呼びかけ実践
- (4)上記以外の食べ残しを減らすための工夫



協力店であることを示すステッカー

※3 「宴会たべきりキャンペーン」

特に食べ残しが多い「宴会での食事」に焦点をあて、宴会で食べ残しをしないための呼びかけを、協力店等と宴会幹事との協力により宴会参加者に行う取組。平成23年度から実施しています。

＜家や飲食店・宿泊施設での食べ残さない取組について＞

家では「常実践している」と「概ね実践している」が9割超。飲食店・宿泊施設では「常実践している」と「概ね実践している」が約9割。「常実践している」の割合は、家より飲食店・宿泊施設が8.9ポイント低い。なお、家と飲食店・宿泊施設では、いずれも年代が上がるほど、食べ残さない取組を「常実践している」割合が低下する傾向が認められる。

問25 あなたは次の取組をどの程度実践していますか。

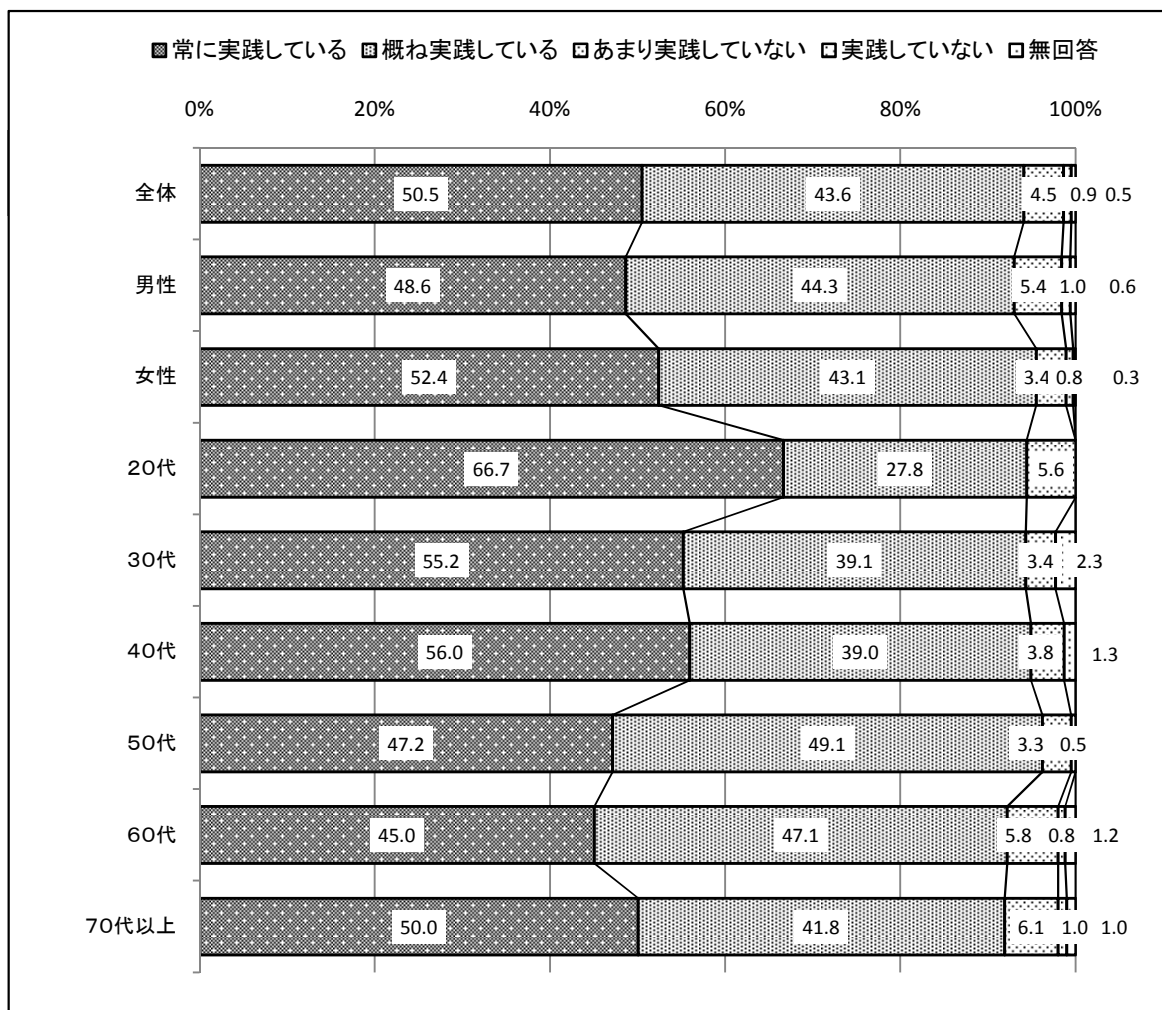
上段：回答数、下段：割合（％）

	常実践している	概ね実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答
n=844					
家で食べ残さない	426	368	38	8	4
	50.5	43.6	4.5	0.9	0.5

●家で食べ残さない取組について、全体では「常実践している」50.5%、「概ね実践している」43.6%。

●「常実践している」について男女差はほとんどないが、3.8ポイントほど女性の割合が高い。

●年代別では、「常実践している」の割合が高いのは20代（66.7%）で、年代が上がるほど「常実践している」割合が低くなる傾向が認められる。



上段:回答数、下段:割合(%)

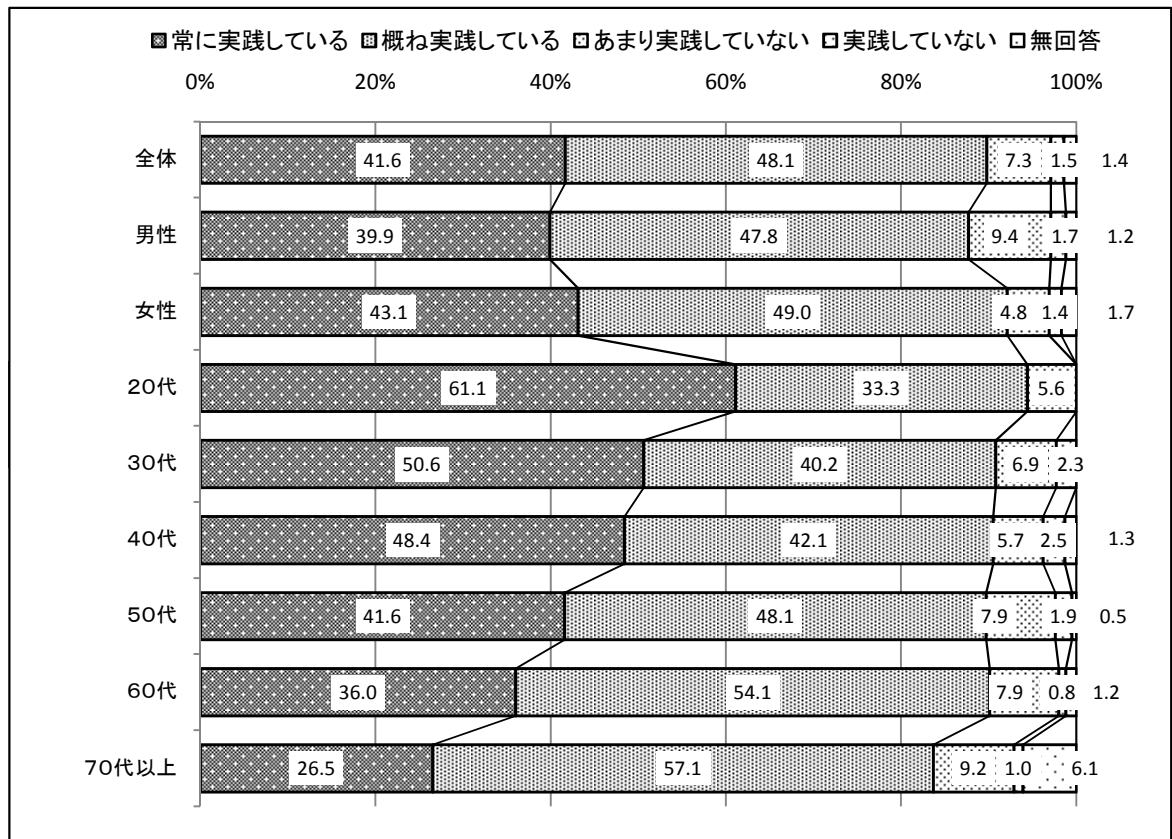
	常に実践 している	概ね実践 している	あまり実践 していない	実践して いない	無回答
n=844					
飲食店や宿泊施設で食べ残さない	351	406	62	13	12
	41.6	48.1	7.3	1.5	1.4

●飲食店や宿泊施設で食べ残さない取組について、全体では「常に実践している」41.6%、「概ね実践している」48.1%。

●「常に実践している」について男女差はほとんどないが、3.2ポイントほど女性の割合が高い。

●「常に実施している」の割合は、家より飲食店・宿泊施設が8.9ポイント低い。

●年代別では、「常に実施している」の割合が高いのは20代(61.1%)で、年代が上がるほど「常に実施している」割合が低くなる傾向がはっきり認められる。



<参考> 「平成22年度県政世論調査」

あなたが食事を食べ残してしまうことが多いと思われるのは、どのような場面ですか。(2つまで)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=1,226		
宴会での食事	771	62.9
冠婚葬祭での食事	627	51.1
旅行先での食事	188	15.3
家庭での食事	140	11.4
レストランなどでの外食時	108	8.8
その他	13	1.1
食べ残すことはほとんどない	318	25.9
無回答	13	1.1

＜家庭で生ごみを減らすための取組＞

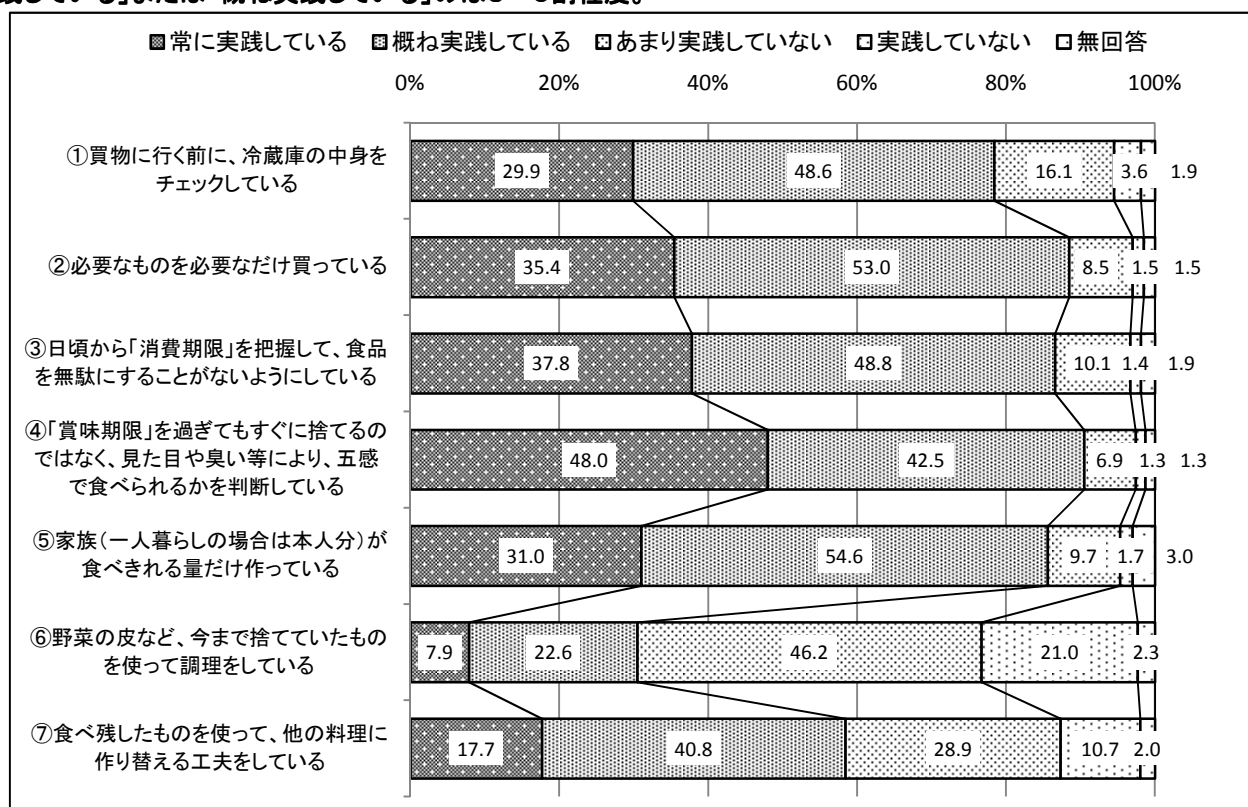
食材の購入、管理及び消費の各過程で生ごみを減らすための取組は概ね高い水準で実践されている。特に、常に「賞味期限」に関わらず見た目や臭い等により食べられるかどうかを判断している人が約5割。一方で、野菜の皮の利用や、食べ残しの他の料理への作り替えといった取組まではあまり手が及んでいない。

あなたのご家庭では、次の生ごみを減らすために有効であると思われる取組をどの程度実践していますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。分からない部分がありましたら、ご家族の方にお聞きいただきますようお願いいたします。

	n=844					割合(%)				
	常に実践している	概ね実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	常に実践している	概ね実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答
① 買物に行く前に、冷蔵庫の中身をチェックしている	252	410	136	30	16	29.9	48.6	16.1	3.6	1.9
② 必要なものを必要なだけ買っている	299	447	72	13	13	35.4	53.0	8.5	1.5	1.5
③ 日頃から「消費期限」を把握して、食品を無駄にすることがないようにしている	319	412	85	12	16	37.8	48.8	10.1	1.4	1.9
④ 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、見た目や臭い等により、五感で食べられるかを判断している	405	359	58	11	11	48.0	42.5	6.9	1.3	1.3
⑤ 家族(一人暮らしの場合は本人分)が食べきれぬ量だけ作っている	262	461	82	14	25	31.0	54.6	9.7	1.7	3.0
⑥ 野菜の皮など、今まで捨てていたものを使って調理をしている	67	191	390	177	19	7.9	22.6	46.2	21.0	2.3
⑦ 食べ残したものを使って、他の料理に作り替える工夫をしている	149	344	244	90	17	17.7	40.8	28.9	10.7	2.0

●食材の購入(項目①～②)と管理(項目③～④)に関する取組を、「常に実践している」または「概ね実践している」が8～9割程度を占める。特に、常に「賞味期限」に関わらず見た目や臭い等により食べられるかどうかを判断している人が約5割。

●食材の消費に関しては、家族が食べきれぬ量だけ調理することを「常に実践している」または「概ね実践している」が8割超を占める。一方、野菜の皮などの利用や、食べ残しの他の料理への作り替えといった取組を「常に実践している」または「概ね実践している」のは3～6割程度。



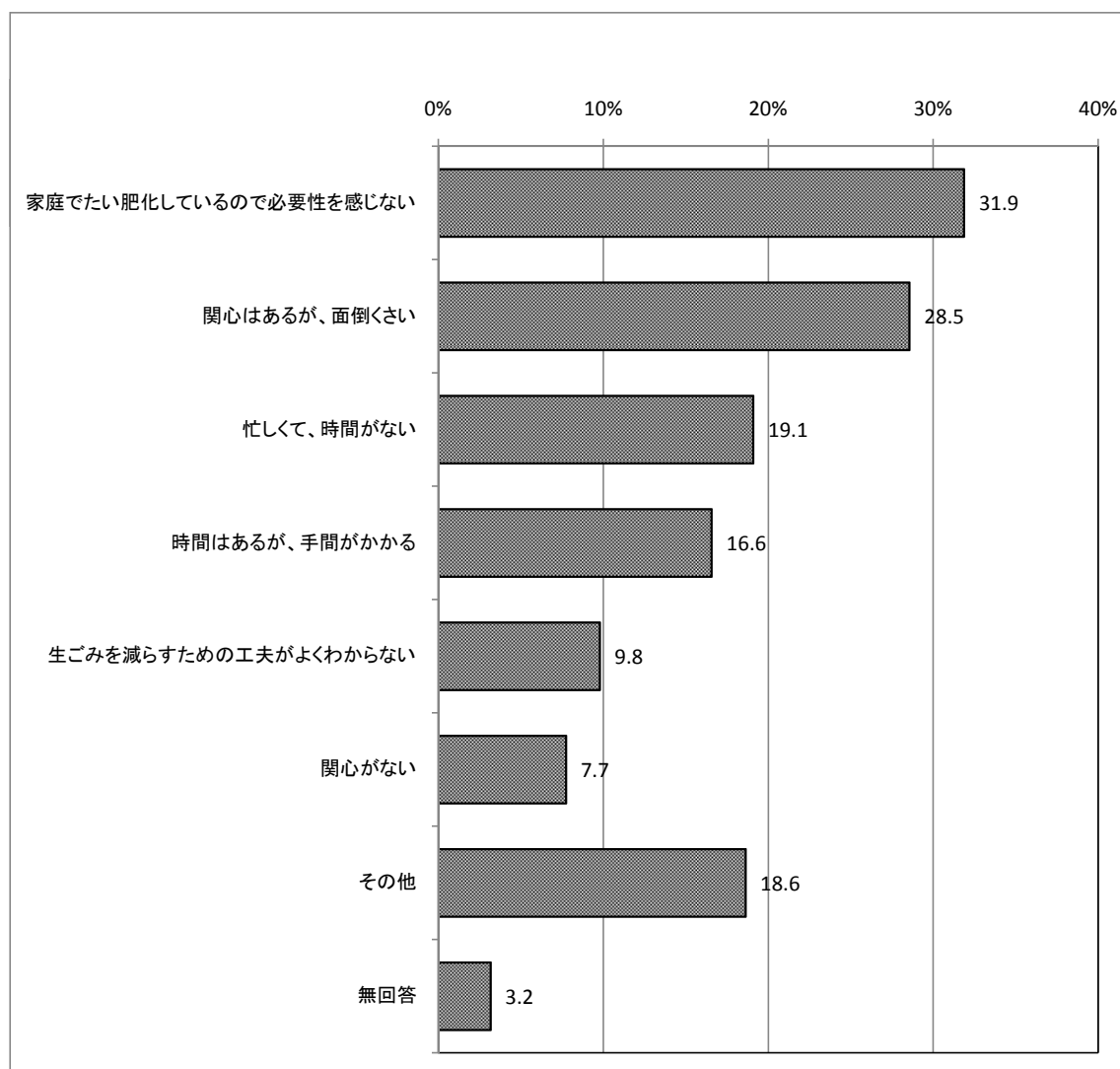
＜家庭での生ごみを減らすための取組を行わない理由＞

「家庭でたい肥化をしているので必要性を感じない」、「関心はあるが、面倒くさい」が約3割、「忙しくて、時間がない」が約2割。

問27 問26の項目のうち、1項目でも「あまり実践していない」「実践していない」に○をした方は、その理由をお答えください。(○は3つまで)

	n=634	
	回答数(人)	割合(%)
家庭でたい肥化しているので必要性を感じない	202	31.9
関心はあるが、面倒くさい	181	28.5
忙しくて、時間がない	121	19.1
時間はあるが、手間がかかる	105	16.6
生ごみを減らすための工夫がよくわからない	62	9.8
関心がない	49	7.7
その他	118	18.6
無回答	20	3.2

●「家庭でたい肥化しているので必要性を感じない」が31.9%と最も高く、「関心はあるが、面倒くさい」(28.5%)、「忙しくて、時間がない」(19.1%)と続く。



＜生ごみを減らすための普及活動に適した場＞
「小学校」が7割弱

問28 生ごみを減らすための普及活動の場として適しているのはどこですか。(〇は3つまで)

	n=844	
	回答数(人)	割合(%)
小学校	562	66.6
中学校	431	51.1
公民館、消費者センター	404	47.9
幼稚園、保育園	246	29.1
高等学校	149	17.7
大学、専門学校	75	8.9
その他	82	9.7
無回答	22	2.6

●「小学校」が66.6%と最も高く、「中学校」(51.1%)、「公民館、消費者センター」(47.9%)と続く。

●「幼稚園、保育園」が約3割で、「高等学校」より上位。

